科学技術融合振興財団助成金報告書

視点の移動を体験するコミュニケーション・ゲームの開発：

発達障がいを持つ成人を対象に

平成 31 年 2 月

安藤香織　冠地情　原佐知子　安達菜穂子

科学技術融合振興財団研究助成金報告書

「視点の移動を体験するコミュニケーション・ゲームの開発 : 発達障がいを持つ成人を対象に」

【研究実施期間】
2016 年 3 月～2019 年 2 月

【研究代表者】
安藤香織
奈良女子大学研究院生活環境科学系　准教授

【研究協力者】
冠地情
　東京都成人発達障がい当事者会　イイトコサガシ　代表
原佐知子
　発達障害者サポートネットワーク LINK、障がい児・者の医療を考える会がじゅまる
安達菜穂子
　大阪市立大学文学研究科

【学会発表】
安藤香織・原佐知子・冠地情・安達菜穂子　(2018.3.25)発達障がいのある成人のためのコミュニケーション・ゲームの開発：男女差の検討　日本発達心理学会第 29 回大会(東北大学)

【一般向け講演会の実施】
原佐知子・東田愛子　(2017.11.17)　発達障がいについて考える（奈良女子大学）
原佐知子・東田愛子　(2017.11.18)　発達障害のある人の可能性を探る（奈良女子大学）
冠地情 (2018.2.23) 発達障害を持つ人の生きづらさの本質「発達障害の僕から今、皆さんに伝えたいこと」 (奈良女子大学)
冠地情・笹森理絵 (2019.1.11) 発達障害と多様性　(奈良女子大学)

目次

1 章　調査の企画と実施 3

1.1　調査の目的 3
1.2　調査の手続き 3
1.3　質問項目 6

2 章　調査結果の分析 8

2.1　回答者の基本属性 8
2.2　コミュニケーション・ゲームに関する回答結果 15
2.3　まとめ 23

3 章　自由記述 24

3.1　コミュニケーション・ゲームの感想 24
3.2　人とのコミュニケーションで困った体験 29

4 章　講演会 34

4.1　2017 年 11 月 18 日講演会のアンケート結果 34
4.2　2018 年 2 月 23 日講演会アンケートの結果 39
4.3　2019 年 1 月 11 日講演会アンケートの結果 42

付録 50

1. コミュニケーション・ゲームのルール 51
2. コミュニケーション・ゲーム　振り返りシート 53

1 章　調査の企画と実施

1.1　調査の目的

本研究は、2012 年からの科学技術融合振興財団調査研究助成により開発した、ディベートを基としたコミュニケーション・ゲームを更に発展させること、またゲームを通じて女性当事者のコミュニケーション特性を探ることを目的とする。2012 年からの研究では発達障がいを持つ人は他者の感情を推測することが苦手であることが確認され、最初から賛成・反対の立場が決まっているディベート形式は発達障がいを持つ人にとって議論がしやすいことなどが明らかになった。そのため本研究では、そのコミュニケーション・ゲームをさらに発展させ、より発達障がいを持つ人にとって実施しやすい形態を検討する。

また、性別による違いについて、発達障がいを持つ人で女性の割合が少ないと言われているが、実際には女性は発達障がいを持つ人であっても診断されにくいということが指摘されている（Simon et al., 2009）。発達障がいを持つ男性は反抗挑戦性障害などの外的特徴を持つが、女性は社交不安障害のような内的特徴を持つことが指摘されており（Levy et al., 2005）、外から見えにくいため、女性の場合幼少期には発達障がいであることが診断されにくい（Simon et al., 2009）。本来の男女比はそれほど性差がない可能性がある。また、女性で発達障がいを持つ人のコミュニケーションの特性については、十分に明らかにされていない。本研究では、女性の発達障がい当事者を対象としてもワークショップを実施、コミュニケーション・ゲームでやりにくい点はないか、またコミュニケーションの特性を検討する。

ゲームの開発・実施にあたっては、東京都成人発達障がい当事者会「イイトコサガシ」と協力する。「イイトコサガシ」では、これまで、発達障がいのある人を対象としたワークショップを東京都を中心とした全国で行っている（43 都道府県で 300 回以上の開催）。また、原佐知子氏と協力して発達障がい当事者、支援者を対象としたワークショップを実施する。

1.2　調査の手続き

1.2.1　調査対象者

「イイトコサガシ」のワークショップの参加者、及び調査協力者である原が実施するワークショップの参加者。これらのワークショップでは、発達障がい当事

者及びその支援者、関係者等に参加を呼びかけている。参加者には発達障がいと診断された者も、それ以外の者も含まれる。ただし、発達障がいとの診断を受けていなくても、実際には発達障がいを持つ場合もある。

1.2.2　ゲームの実施

2016 年～2017 年に 7 回、ワークショップを実施した。ワークショップの参加者は計 72 名であった。共催団体は、就労移行支援施設こみっと、就労移行支援施設ペガサス、株式会社発達障害、堺はったつの会、アスパラガスの会（大阪の当事者団体）、日野飛ぶ教室、カウンセリングルームすのわである。ワークショップの開催場所は関東及び関西であった。ゲームのファシリテーターのうち 1 人は必ず研究協力者の冠地情、原佐知子のいずれかが行い、安藤が補助する場合もあった。ゲームの詳しい内容は付録 1「コミュニケーション・ゲームのルール」を参照。

表　1.2.2　ワークショップの開催場所

	開催場所	所在地	共催	参加者人数
1	就労移行支援施設こみっと	東京都立川市	就労移行支援施設こみっと	7名
2	就労支援施設ペガサス横須賀事業所	神奈川県	就労支援施設ペガサス横須賀事業所	12名
3	東京都障害者福祉会館	東京都港区	株式会社発達障害	5名
4	堺市総合福祉会館	大阪府堺市	堺はったつの会	7名
5	柏原市立市民プラザ	大阪府柏原市	アスパラガスの会	17名
6	日野市役所　新町交流センター	東京都日野市	日野飛ぶ教室	15名
7	足立区勤労福祉会館　ぷるみえ綾瀬	東京都足立区	カウンセリングルームすのわ	9名

1.2.3　ゲームのルール

ゲームのルールは、以下の通りである。前回のゲームとの第 1 の相違点は、発話者がボールを持つこととした。それにより、誰が発言する番なのかを明確にする。また、ボールを渡すことにより、次の発話者を指定することができる。

第 2 の相違点は、コミュニケーション・ゲームの実施前に、準備として連想ゲームを行った。連想ゲームでは、コミュニケーション・ゲームのテーマに関連し

た単語をファシリテーターが示し、それに対して連想する言葉を制限時間内で思いつくだけ書いてもらう。例えば「旅行に行くなら山が良いか海が良いか」のテーマの場合、「山」と「海」それぞれについて連想してもらう。

その中から自分のお気に入りの連想 1 つを発表する。また、連想した言葉を書いた紙をグループでまわして、他の参加者全員から、良いと思う言葉 1 つにシールを貼ってもらう。

コミュニケーション・ゲームではメリットとデメリットを考えてもらうが、急には思いつかない場合もある。連想ゲームを行う目的は、連想ゲームでその言葉について考えることにより、その言葉に関連した特性が活性化され、メリット、デメリットが考えやすくなるためである。また、他の参加者から良いと思う連想語にシールを貼ってもらうことにより、自分自身の視点だけでなく、客観的な視点からもその特性について考えることができる。

コミュニケーション・ゲームのルール

1. ワークショップの参加者は、1 グループ 5−7 人程度。参加者を 3 組に分ける（1 チーム　1〜3 人）。立場 A、立場 B で議論する人、オーディエンス役 C　とする。例えば全員で 6 人の場合、1 チーム 2 人ずつ。
2. A と B の人は簡単なテーマで二手に分かれて議論する。
   例えば、「ペットにするのは犬（A)がいいか猫（B)がいいか」など。
   C の人は、議論の様子を観察して、A と B のいいところを探す。
3. 議論の前に、オプションをいくつか提示し、その中から自分の目標を選んでもらう。それぞれどれを選んだかを言う。
4. 議論の時間は 1 回 7 分とする。それぞれの人のスピーチ時間は決めず、自由とする。
   両チームが同じぐらいの時間、スピーチができるように、互いに気を配る。
5. スピーチをする人は、ボールを持つ。スピーチが終わったら次の人にボールを渡す。
6. 議論の時間の中で、1 人 1 回、必ず質問を入れるようにする。
7. 7 分間の自由な議論の後、A、B チームそれぞれ「まとめの議論」を行う。まとめの議論の前に、1 分間作戦会議の時間を取る。まとめの議論は各チーム 1 分とする。それぞれのチームの中で 1 人のみがスピーチしてもよいし、他のメンバーがフォローしてもよい。
8. オーディエンス役の人は、議論が終わった後で、それぞれの人のどんなところが良かったか、説明する（勝敗をつけなくて良い)。1 人ずつについてでも、チームでまとめてでもよい。1 人最大 1 分程度。簡潔に。

1.3　質問項目

コミュニケーション・ゲーム実施後に参加者にアンケートへの回答を求めた。アンケートの質問項目は以下のような構成となっている（付録 2 参照）。

1.3.1　ゲームの個別側面の自分の達成度の評価（A1～A8）

コミュニケーション・ゲームへの個別側面に関する 8 項目（「楽しく議論することができた」など）について本人の達成度を尋ねた。達成度は「まったくできなかった」(1)～「よくできた」(5)の 5 件法で測定した。

1.3.2　ゲーム全体評価（B1～B5）

コミュニケーション･ゲームへの全体評価に関する 5 項目（「今回のゲームは、コミュニケーションの練習として役立ったと思う」など）についてゲームの有効性を尋ねた。これらに関する回答は「まったくそう思わない」(1)～「非常にそう思う」(5)の 5 件法で測定した。

1.3.3　コミュニケーション・ゲームの感想（C）

コミュニケーション・ゲームの感想を自由記述で尋ねた。

1.3.4　調査対象者の基本属性（D1～D10）

本人の属性として、性別・年齢・職業・住まい・結婚の有無・子どもの有無、発達障がいとの関わり・発達障がいであることが分かったきっかけ、発達障がいであることが分かった時期・ワークショップの情報収集手段を尋ねた。

1.3.5　コミュニケーション特性（E1～E9）

人とコミュニケーションする特性に関する 9 項目（「興味ある話題だと自分だけが話し続けてしまう」など）について尋ねた。これらに関する回答は「まったくそう思わない」(1)～「非常にそう思う」(5)の 5 件法で測定した。

1.3.6　コミュニケーションの困難さの体験（F）

人とのコミュニケーションで困った体験はあるか、自由記述で尋ねた。

2 章　調査結果の分析

2.1　回答者の基本属性

2.1.1　有効回答率

コミュニケーション・ゲームには 72 名が参加し、そのうち質問紙に回答したのは 60 名であった。そのため、有効回答率は 83.3%であった。

2.1.2　性別

性別は、男性は全体の 53%(31 名)、女性は 47%(28 名)であった(図 2.1.2)。未回答は 1 名であった。

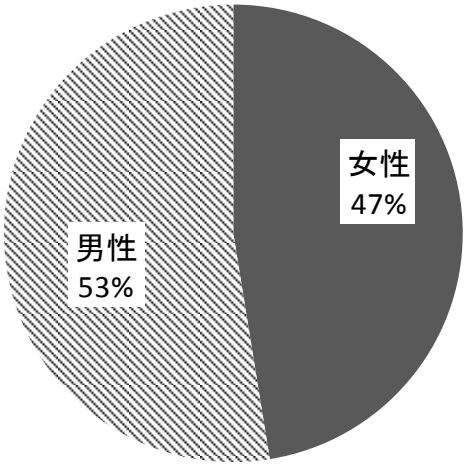


図 2.1.2　性別

2.1.3　年齢

年齢は、10 代は全体の 4%、20 代は 19%、30 代は 26%、40 代は 30%で、50 代は 14%、60 代以上は 7%であった(図 2.1.3)。

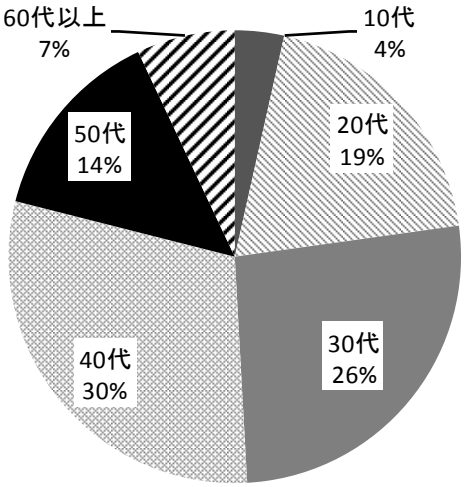


図 2.1.3　年齢

男女別にみると、女性は 20 代と 40 代がそれぞれ 26%、30%と最も多く、男性は 30 代と 40 代が 30%と 34%であり、最も割合が多い年齢層であった。

2.1.4　職業

職業については、会社員が最も多く 34%で、その次に求職中・家事手伝いが多く 20%であった。パート・アルバイトは 19%で、主婦／主夫は 3%、公務員は 2%、自営業は 5%で、その他は 12%であった(図 2.1.4)。

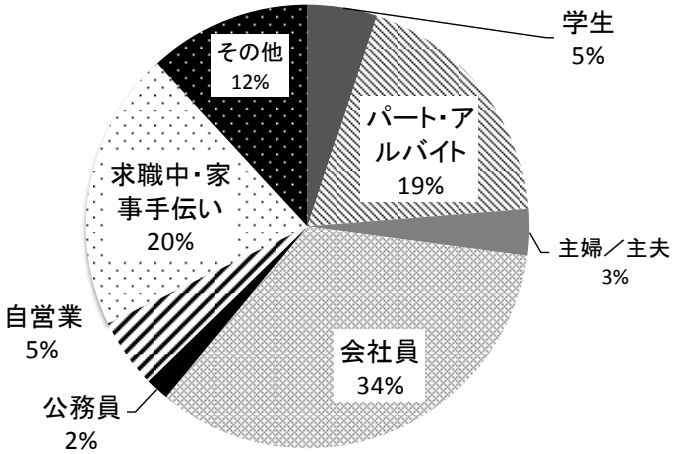


図 2.1.4　職業

男女別にみると、男女ともに会社員が 30%以上と最も多かった。女性はその次にパート・アルバイトが 21%と多く、求職中・家事手伝いは 18%であった。公務員、自営業と回答した人はいなかった。男性は、求職中・家事手伝いが 23%と 2 番目に多く、その次がパート・アルバイトで 16%あった。主夫と回答した人はいなかった。

2.1.5　住まい

住まいについては、東京在住者が最も多く 44%で、次に大阪が多く 27%であった。神奈川、埼玉在住者は 9%で、京都、奈良在住者が 4%、兵庫、滋賀在住者は 2%であった。関東は 62%、関西は 38%であった(図 2.1.5)。

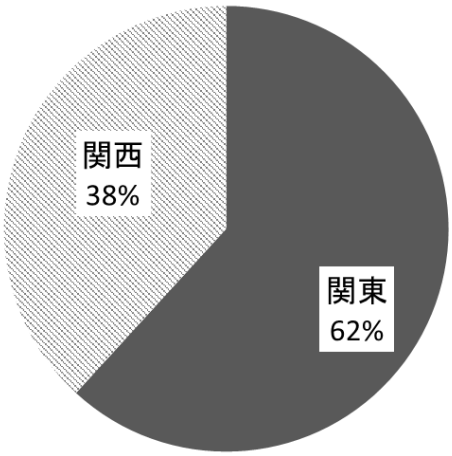


図 2.1.5　住まい

2.1.6　結婚の有無

結婚の有無については、未婚と回答した人が 75%と全体の 4 分の 3 を占めており、既婚と回答した人が 25%であった。　男女別にみると、女性では既婚と回答した人が 39%であるのに対し、男性では 13%と少なくなっていた(図 2.1.6)。

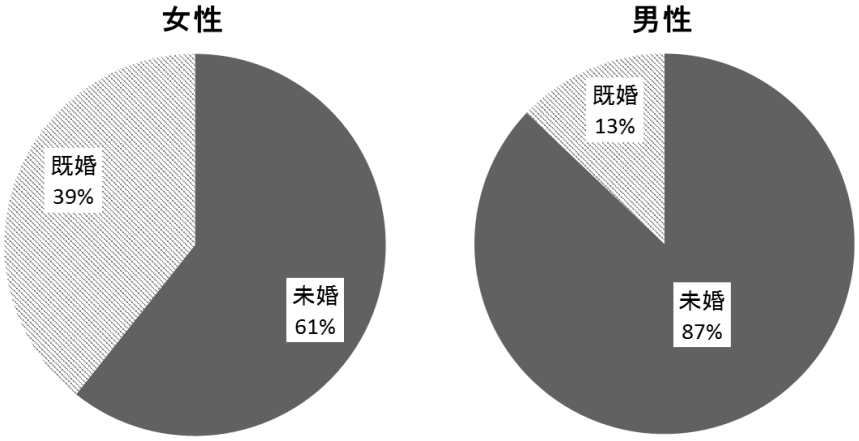


図 2.1.6　男女別の結婚の有無

2.1.7　子どもの有無

子どもの有無については、いると回答した人は29%と全体の約3割なの対し、子どもはいないと回答した人は 71%と非常に多かった。

男女別にみると、女性で子どもはいないと回答した人は 57%、いると回答した人は 43%であった。一方で男性は、子どもはいないと回答した人は 84%、いると回答した人は 16%であり、子どもがいる割合が女性に比べて非常に少なかった(図 2.1.7)。

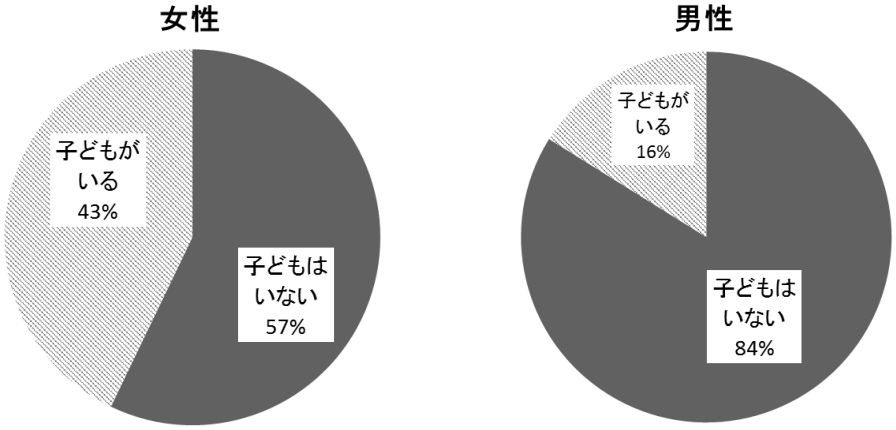


図 2.1.7　男女別の子どもの有無

2.1.8　子どもの人数

子どもがいると回答した人のうち、子どもの人数については、2 人という回答が最も多く 63%で、1 人と回答したのは 31%、3 人は 6%であった(図 2.18)。

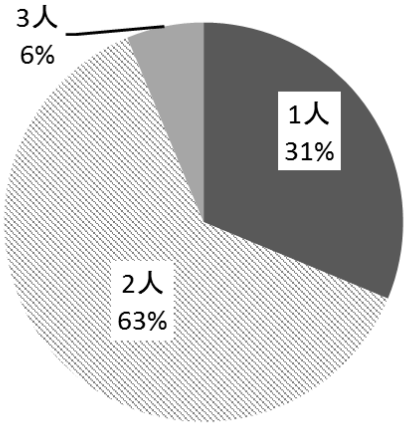


図 2.1.8　子どもの人数

2.1.9　発達障がいとの関わり

発達障がいとの関わりについては、自身が発達障がい当事者である人が最も多く 43 人(72.9%)であった。家族・友人・知り合いに発達障がいの人がいると回答した人は 7 人(11.9%)で、発達障がいに関わる仕事をしているという回答は 3 人(5.1%)、関連する研究をしている人が 1 人(1.7%)で、関わりはないと回答した人は 5 人(8.5%)であった(表 2.1.9)。

表 2.1.9　発達障がいとの関わり

		発達障がい当事者	家族・友人・知り合いに発達障がいの人がいる	発達障がいに関わる仕事をしている（教育関係、就労支援など）	発達障がいに関わる研究をしている	特に関わりはない
全体	人数	43	7	3	1	5
	%	72.9	11.9	5.1	1.7	8.5
女性	人数	20.0	4.0	1.0	1.0	2.0
	%	71.4	14.3	3.6	3.6	7.1
男性	人数	23.0	3.0	2.0	0.0	3.0
	%	74.2	9.7	6.5	0.0	9.7

男女別にみると、男女とも発達障がい当事者である人が最も多く、女性は 20 人(71.4%)、男性は 23 人(74.2%)であった。家族・友人・知り合いに発達障がいの人がいると回答した人は、女性は 4 人(14.3%)、男性は 3 人(9.7%)と 2 番目に多かった。男性は、特に関わりはないと回答した人も 3 人(9.7%)と多かった。

2.1.10　発達障がいであることが分かったきっかけ

発達障がいであることが分かったきっかけについては、自身で病院などを受診したと回答した人が最も多く 21 人(48.8%)で、全体の約半数を占めていた。次に、周囲の人から進められて病院などを受診したと回答した人が多く 6 人(14.0%)で、職場で困ることがあったも 6 人(14.0%)であった。その他の内訳としては、「TV 番組の Check sheet」、「学校でも 1 人で浮いていた」、「学校の授業で学んだ」、「求職中に就労相談員から」、「教職課程がきっかけ」、「仕事でうまくいかなくなった」、「支援職の研修実際の支援の中で自分との共通点を発見した」、「職場の上司に教えてもらった」、「生きづらくてたまらん」、「未受診ですが今度受診します」、と回答した人がそれぞれ 1 人であった(表 2.1.10)。

表 2.1.10　発達障がいであることが分かったきかっけ

		自身で病院などを受診した	親・先生・友人等に勧められて病院等を受診した	発達障がいに関する書籍を読んだ	子どもが発達障がいだということがわかった	職場で困ることがあった	その他
全体	人数	21	6	2	1	6	7
	%	48.8	14.0	4.7	2.3	14.0	16.3
女性	人数	12.0	1.0	2.0	1.0	1.0	3.0
	%	60.0	5.0	10.0	5.0	5.0	15.0
男性	人数	9.0	5.0	0.0	0.0	5.0	4.0
	%	64.3	35.7	0.0	0.0	35.7	28.6

男女別でみると、自身で病院などを受診したと回答した人が最も多く、女性は 12 人(60.0%)、男性は 9 人(64.3%)であった。女性は、次いで発達障がいに関する書籍を読んだが多く 2 人(10.0%)で、男性は周囲の人に勧められて病院などを受診した、という回答と職場で困ることがあったという回答が多くいずれも 5 人(35.7%)であった。

2.1.11　発達障がいであることが分かった時期

発達障がいであることが分かった時期については、就職してからが最も多く 21 人(50.0%)で、次いでその他が多く 8 人(19.0%)であった。小学生の頃またはそれ以前は 5 人(11.9%)、学生の頃、子どもが生まれてからはともに 3 人(7.1%)で、最終学校卒業後と結婚してからは 1 人(2.4%)であった。その他の内訳は、「2011 年頃」、「うつになって」、「パワハラを受けて退職してから」、「数年前の人生後半」と回答した人が 1 人、「子どもが大人になって障害が分かってから」

と回答した人が 2 人であった(表 2.1.11)。

表 2.1.11　発達障がいであることが分かった時期

		小学生の頃またはそれ以前	中・高・大学生の頃	最終学校卒業後	就職してから	結婚してから	子どもが生まれてから	その他
全体	人数	5	3	1	21	1	3	8
	%	11.9	7.1	2.4	50.0	2.4	7.1	19.0
女性	人数	4	2	0	6	1	3	4
	%	25.0	12.5	0.0	37.5	6.3	18.8	25.0
男性	人数	1	1	1	15	0	0	4
	%	4.8	4.8	4.8	71.4	0.0	0.0	19.0

男女別にみると、女性は就職してからが 6 人(37.5%)と最も多く、次いで小学生の頃またはそれ以前、その他が 4 人(25.0%)で、子どもが生まれてからは 3 人(18.8%)、学生の頃が 2 人(12.5%)、結婚してからが 1 人(6.3%)であった。男性は、就職してからが非常に多く 15 人(71.4%)で、次いでその他が 4 人(19.0%)と多く、小学生の頃またはそれ以前、学生の頃、最終学校卒業後が 1 人(4.8%)であった。

2.1.12　情報の収集手段

ワークショップに関する情報は、「ホームページで情報を見た」という回答が最も多く 14 人(25.5%)で、その次に「Facebook で情報を得た」、「友人・知人から聞いた」という回答が多く 9 人(16.4%)であった。「Twitter で情報を得た」が 3 人(5.5%)、「職場で誘われた」が 1 人(1.8%)、「就労支援センターで聞いた」という回答が 4 人(7.3%)でした。「その他」と回答したのは 15 人(27.3%)であり、その内訳としては、「知人からの紹介」が 3 人、「アスパラガス」が 3 人で、「プログラム」「こくちーず」「発達の会」「当事者会」「RSS Readen」と回答したのが各 1 人で、ワークショップ関係者が 2 人、無回答が 2 人であった(表 2.1.12)。

表 2.1.12　情報の収集手段

	ホームページで情報を見た	Twitter（ツイッター）で情報を得た	Facebook（フェイスブック）で情報を得た	職場で誘われた	友人・知人から聞いた	就労支援センターで聞いた	その他
人数	14	3	9	1	9	4	15
%	25.5	5.5	16.4	1.8	16.4	7.3	27.3

2.2　コミュニケーション・ゲームに関する回答結果

2.2.1　個別側面の達成度

コミュニケーション・ゲームでの個別側面の達成度の平均値を、発達障がい当事者とそれ以外の参加者について示す(図 2.2.1.1)。*t* 検定の結果、発達障がい当事者とそれ以外の参加者間で個別側面の達成度に有意差はないことが示された。次に、男性と女性の個別側面の達成度の平均値を図 2.2.1.2 に示した。*t* 検定の結果、男女間で個別側面の達成度に有意差はないことがわかった。

いずれの結果からも、項目の中では、「それぞれの回で質問することができた」が最も平均値が低いことが示された。発達障がいの有無にかかわらず、また男女ともに、ゲームの限られた時間の中で考え、質問をすることは難しいと感じられていた。「楽しく議論することができた」「相手の意見をよく聞くことができた」「立場によって違う視点から見ることができた」については全体的に平均 4.0 以上と達成度が高く評価されていた。

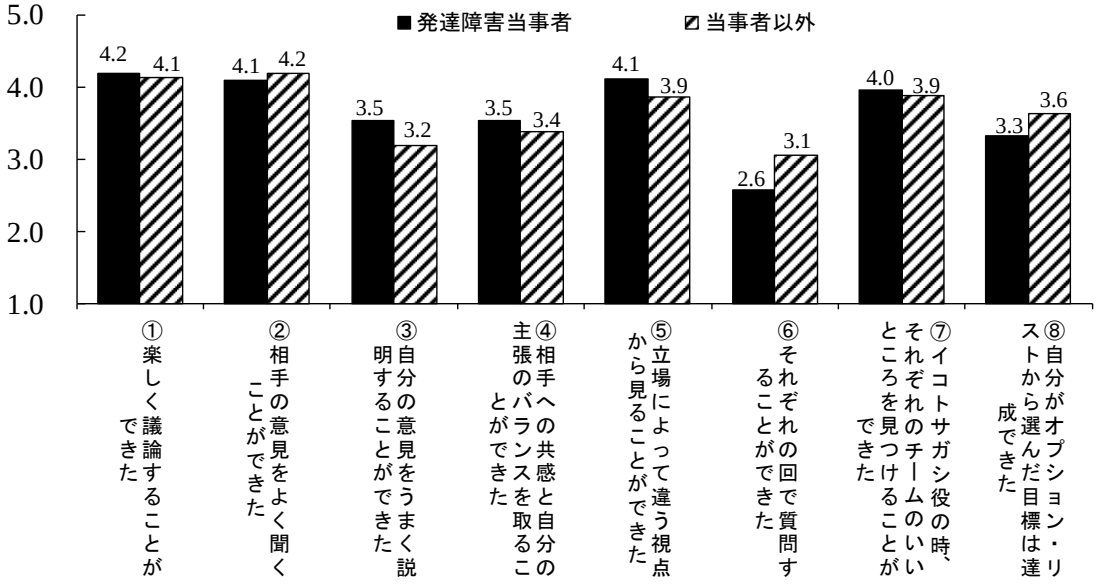


図 2.2.1.1　発達障がい当事者か否かによる個別側面の達成度の評価

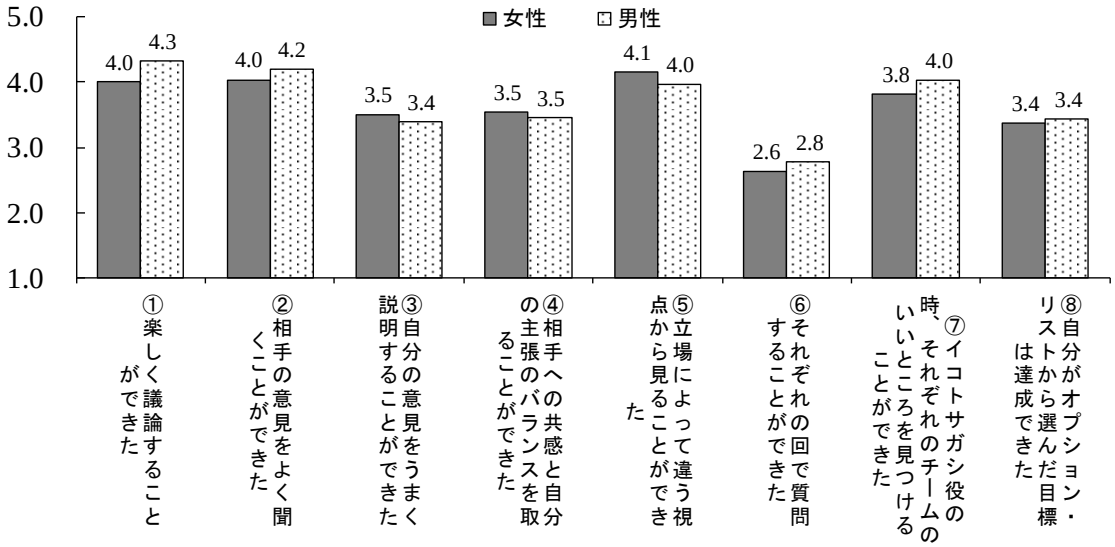


図 2.2.1.2　男女別の個別側面の自分の達成度の評価

ゲームの個別側面の達成度の項目について、因子分析をおこなった(表 2.2.1)。その結果、第 1 因子は「楽しく議論」、第 2 因子は「議論以外」という 2 因子に分かれた。第 1 因子の信頼性係数は.85、第 2 因子は.64 であった。項目 6 は共通性が低く、信頼性係数を低めていたため分析から除外した。

さらに、それぞれの尺度について、発達障がいの有無と性別を独立変数とした分散分析をおこなったところ(図 2.2.1.3、図 2.2.1.4)、いずれの主効果および交互作用も有意ではなかった。

表 2.2.1　ゲームの個別側面における自分の達成度評価の因子分析

		楽しく議論	議論以外	共通性
A4	相手への共感と自分の主張のバランスを取ることができた	.95	.12	.91
A3	自分の意見をうまく説明することができた	.65	.38	.57
A2	相手の意見をよく聞くことができた	.62	.57	.70
A1	楽しく議論することができた	.61	.44	.56
A5	立場によって違う視点から見ることができた	.54	.18	.32
A7	イコトサガシ役の時、それぞれのチームのいいところを見つけることができた	.25	.63	.46
A8	自分がオプション・リストから選んだ目標は達成できた	.15	.74	.57
	因子寄与	3.24	0.86	

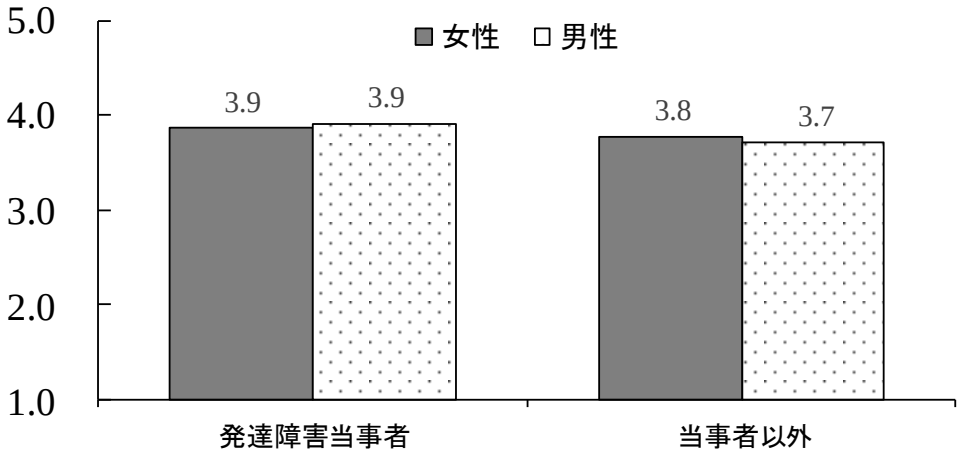


図 2.2.1.3　発達障がい当事者か否かによる「楽しく議論」の平均値

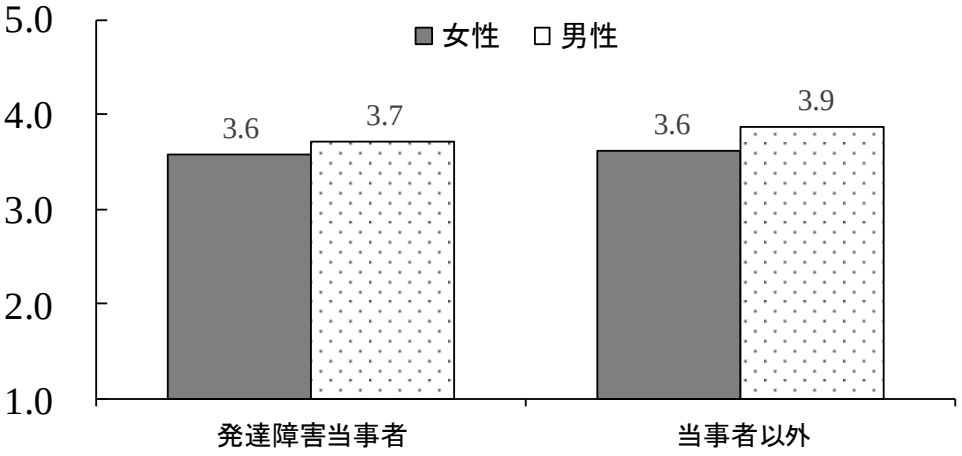


図 2.2.1.4　男女別の「議論以外」の平均値

2.2.2　ゲームへの評価

ゲームの評価の平均値を、発達障がい当事者とそれ以外の参加者について図 2.2.2.1 に、男女別の平均値について図 2.2.2.2 に示す。t 検定の結果、すべての項目において有意差はみられなかった。「このコミュニケーション・ゲームをやってみてよかったと思う」の得点が最も高く、次いで「今回のゲームは、コミュニケーションの練習として役立ったと思う」「またこのゲームをやってみたい」の得点が高かった。参加者は総じてゲームを高く評価していた。

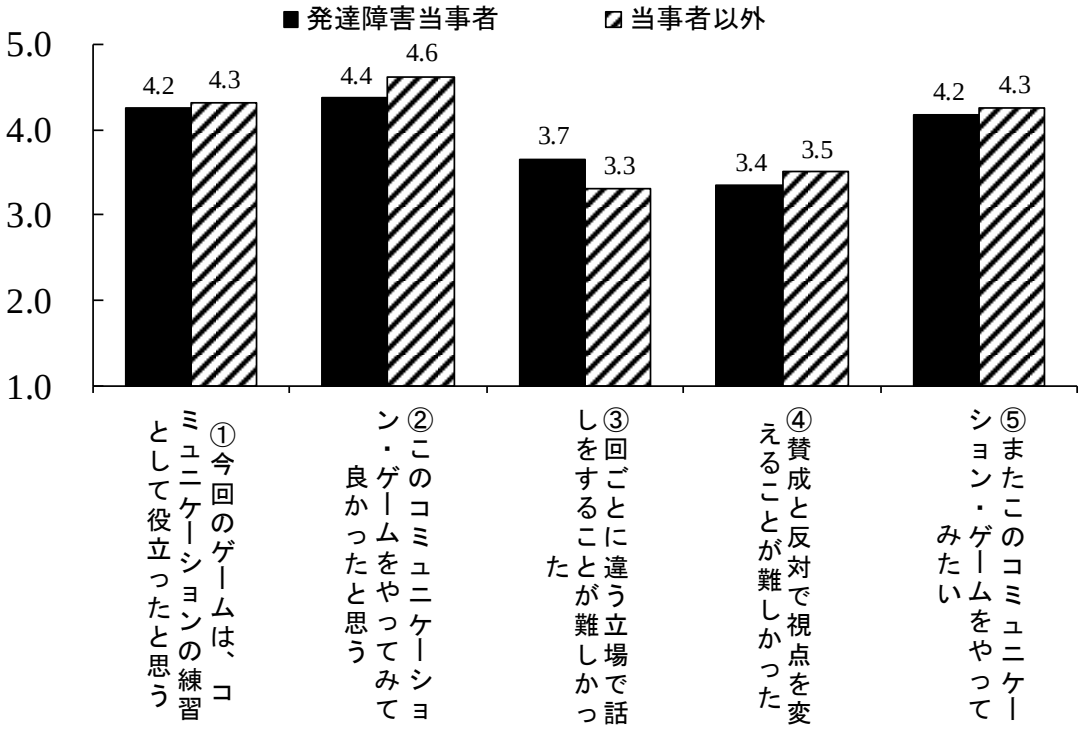


図 2.2.2.1　発達障がい当事者か否かによるゲームの評価

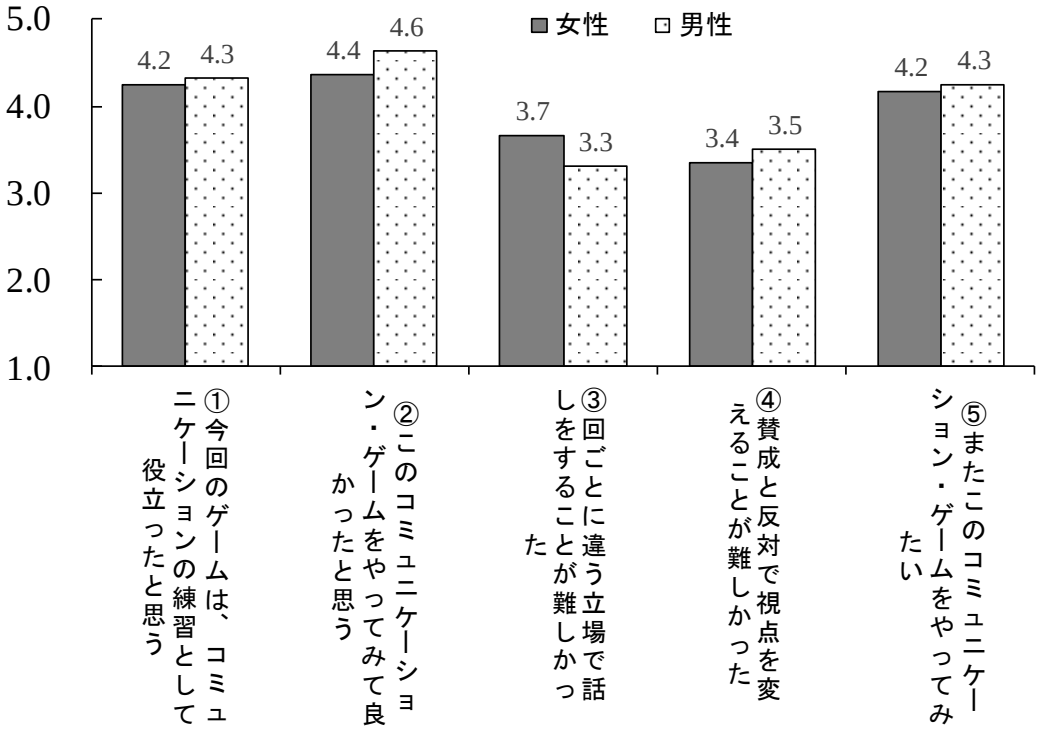


図 2.2.2.2　男女別のゲームの評価

ゲームの評価について、因子分析をおこなった(表 2.2.2)。その結果、第 1 因子は「総合的評価」、第 2 因子は「視点変換の困難」という 2 因子に分かれた。第 1 因子の信頼性係数は.87、第 2 因子は.83 であった。

さらに、それぞれの尺度について、発達障がいの有無と性別を独立変数とした分散分析をおこなったところ(図 2.2.1.3、図 2.2.1.4)、いずれの主効果および交互作用も有意ではなかった。

表 2.2.2　ゲームの評価の因子分析

		総合的評価	視点変換の困難	共通性
B2	このコミュニケーション・ゲームをやってみて良かったと思う	.94	.13	.90
B5	またこのコミュニケーション・ゲームをやってみたい	.87	.05	.76
B1	今回のゲームは、コミュニケーションの練習として役立ったと思う	.71	.07	.51
B4	賛成と反対で視点を変えることが難しかった	.07	.96	.93
B3	回ごとに違う立場で話しをすることが難しかった	.09	.73	.55
	因子寄与	2.08	1.56	

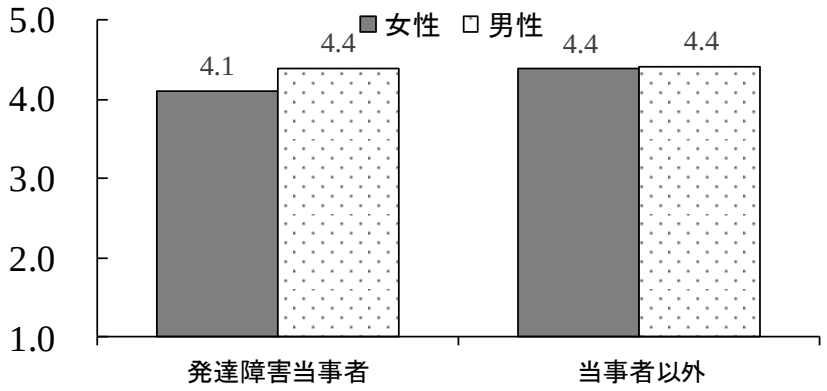


図 2.2.2.3　「総合的評価」の平均値

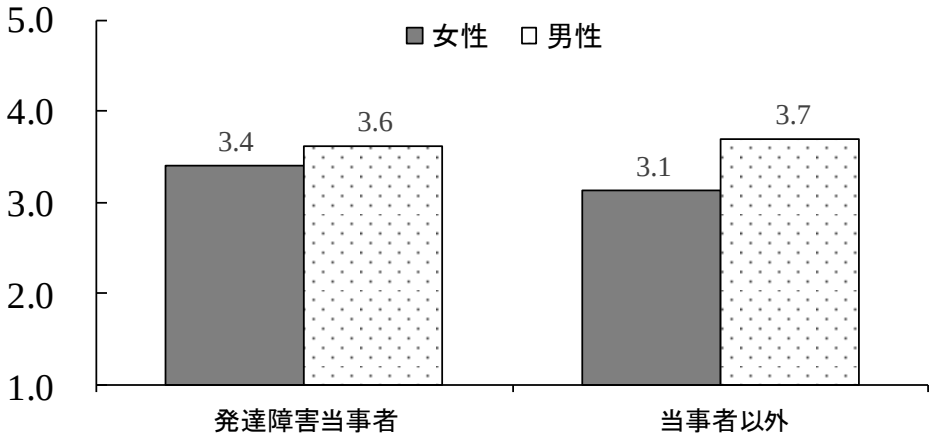


図 2.2.2.4　「視点変換の困難」の平均値

2.2.3　コミュニケーション特性

コミュニケーション特性の平均値を、発達障がい当事者とそれ以外の参加者について示す(図 2.2.3.1)。*t* 検定の結果、項目①「興味がある話題だと自分だけが話してしまう」は、発達障がい当事者の方が当事者以外より得点が高く(p<.05)、項目⑤「相手の気持ちや言いたいことを読み取るのが苦手」も同様の傾向がみられた(p<.10)。項目⑨「コミュニケーションで困ったことはあまりない」では、当事者以外の得点が高い傾向がみられた(p<.10)。

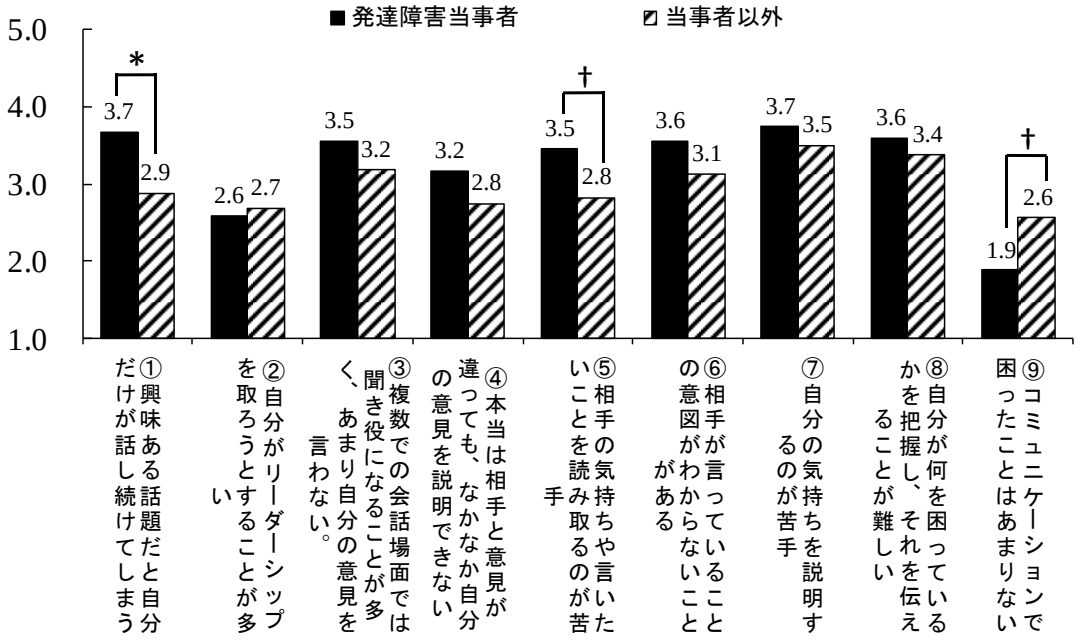


図 2.2.3.1　発達障がい当事者か否かによるコミュニケーション特性

同様に、男女別の平均値についても図 2.2.3.2 に示す。*t* 検定の結果、項目⑤「相手の気持ちや言いたいことを読み取るのが苦手」と項目⑧「自分が何を困っているかを把握し、それを伝えることが難しい」で有意差がみられ、いずれも女性の方が男性より得点が高かった(*ps*<.05)。

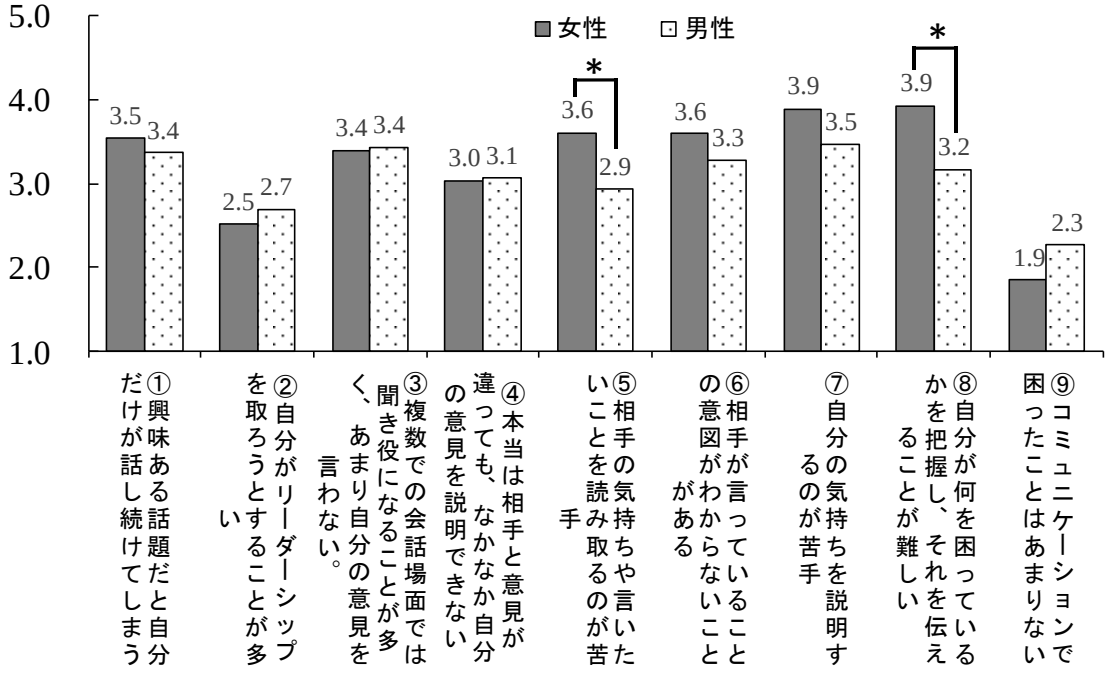


図 2.2.3.2　男女別のコミュニケーション特性

コミュニケーション特性について、因子分析をおこなった(表 2.2.3)。その結果、第 1 因子は「感情読み取り困難」、第 2 因子は「意見表明の困難」という 2 因子に分かれた。第 1 因子の信頼性係数は.80、第 2 因子は.73 であった。

さらに、それぞれの尺度について、発達障がいの有無と性別を独立変数とした分散分析をおこなった（図 2.2.3.3、図 2.2.3.4)。その結果、感情読み取りの困難では、発達障がいの有無の主効果($F(1, 54)=5.41$, $p<.05$)と、性別の主効果($F(1, 54)=3.83$, $p<.10$)が有意であったが、交互作用は有意ではなかった。すなわち、当事者以外より発達障がい当事者の方が、また、男性より女性の方が感情の読み取りは難しいと感じていたことがわかった。意見表明の困難では、いずれの主効果および交互作用も有意ではなかった。

表 2.2.3　コミュニケーション特性の因子分析

		感情読み取り困難	意見表明の困難	共通性
E5	相手の気持ちや言いたいことを読み取るのが苦手	.87	-.03	.75
E6	相手が言っていることの意図がわからないことがある	.84	-.14	.72
E9	コミュニケーションで困ったことはあまりない	-.56	-.18	.35
E8	自分が何を困っているかを把握し、それを伝えることが難しい	.51	.17	.29
E7	自分の気持ちを説明するのが苦手	.46	.40	.37
E3	複数での会話場面では聞き役になることが多く、あまり自分の意見を言わない。	.09	.82	.68
E4	本当は相手と意見が違っても、なかなか自分の意見を説明できない	.29	.78	.69
E1	興味ある話題だと自分だけが話し続けてしまう	.27	-.46	.28
E2	自分がリーダーシップを取ろうとすることが多い	-.08	-.46	.21
	因子寄与	2.66	1.70	

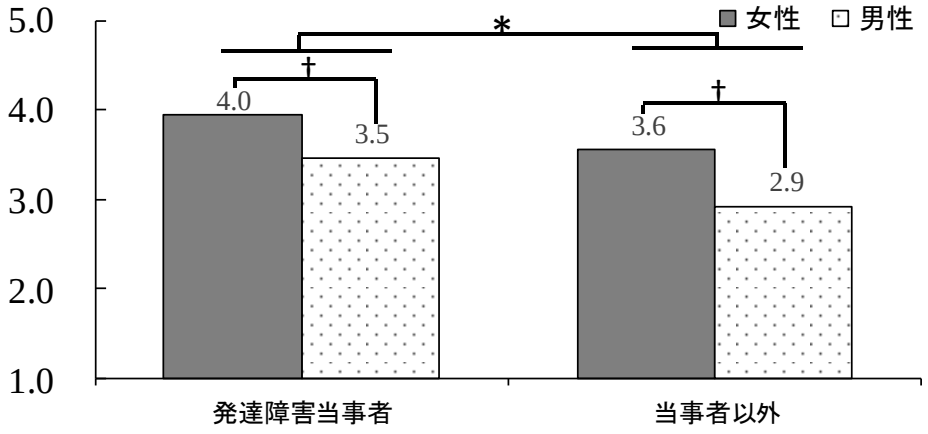


図 2.2.3.3　「感情読み取り困難」の平均値

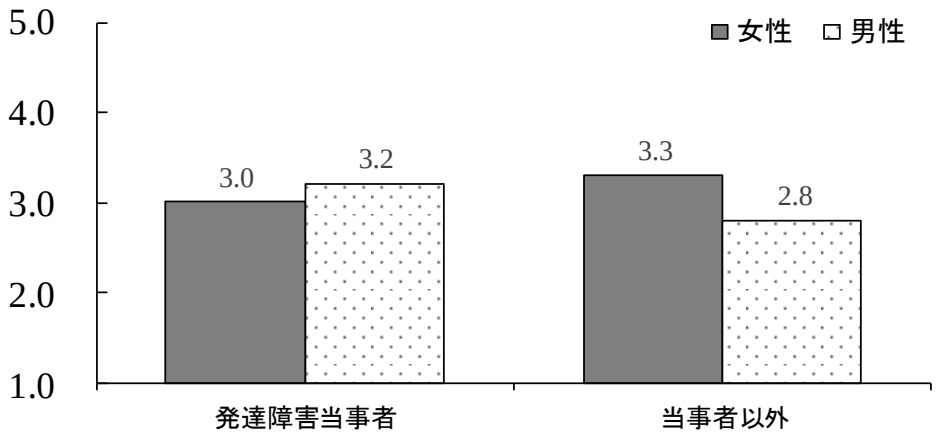


図 2.2.3.4　「意見表明の困難」の平均値

2.3　まとめ

分析の結果から、発達障がい当事者も当事者以外と同様にゲーム目標を達成でき、ゲームを楽しむことができたていたことが分かった。ただ、両者とも「それぞれの回で質問することができた」の点が低く、ゲーム内での質問時間を長くするといったような改善も必要かもしれない。

コミュニケーション特性では、発達障がい当事者は当事者以外と比べてコミュニケーション場面で困ることが多い傾向にあり、感情読み取りに困難を感じていることが分かった。発達障がい当事者が抱える特有の困難さが浮き彫りになったといえる。また、女性は男性に比べて、感情読み取りが難しいと感じていることが明らかになった。一般的に女性は共感性が高いと言われるため、この結果は一見矛盾しているように見えるかもしれない。しかし、この結果は、女性は他者の感情を読み取る事に関して高い水準を求められているために、発達障がいを持つ女性は一般的な期待水準と比べて自分は十分に感情読み取りができていないと感じていることを示しているのではないだろうか。

以上のことから、コミュニケーション・ゲームは、普段のコミュニケーションでは感情読み取り等が苦手だと感じる発達障がい当事者も楽しむことのできるゲームであったといえる。「ゲームがコミュニケーションの練習として役立つと思う」での得点が高かったことからも、発達障がい当事者がこのゲームを通じてコミュニケーションスキルを磨くことができる可能性が示されたといえるだろう。

3 章　自由記述

「コミュニケーション･ゲームの感想」と「コミュニケーションで困った体験」についての自由記述の結果を示す。ほとんどの人が感想、困った体験を記入していた。

3.1　コミュニケーション・ゲームの感想

1 コミュニケーションの練習になった（女性:2　男性:2）

- 本来の自分と違う価値観･賢明観を得て、生きがいのあるバラエティーや臨場感を実現しだして、コミュニケーションの能力向上を達成するのにつながって良い経験・頭脳向上に良いものだと思いました。
- 仕事以外でのコミュニケーションで直接話すことは少ないので良い機会だったと思います。
- 自分のスキルやコミュニケーション能力を補うのに適していると考える。
- 同じチームの人が都会、田舎の魅力を楽しそうに展開していることを自分がうまく広げていけるような話し方をしたいと思いました。（相手チームの話を、まあまあ切り替えることに精一杯だった。）オーディエンス役を体験できてよかった。みなさんの会話の展開のしかた意見の述べ方なども参考になり、今後活かせるようになりたいです。

2 考えながら話すのが難しい（女性:1　男性:2）

- 何度かディベートゲームをやったことがありますが、いつも「考えながら話す」ということについて自分が苦手であるということを思い知らされます。自分が「心」では思っていないことを「頭」で考えながら、同時に口でも説明するというのはすごく負荷が高いです。そして考えた内容を思い出しながら思い出すことと説明することの２つを同時にしないといけないのは Working Memory が足りない感じがします。何か対応方法や鍛錬方法はないのでしょうか？
- コミュニケーションが苦手なために参加したので、私はある意味でこの会の良い意味で研究材料になったのではないかと思います。ハートの目印を渡し合うことで、普段喋らない私でも無理に頭をフル回転することが出来、喋るような場面を作らせて頂いたので修行になったかと思います（笑）今回コミュニケーションの目標が雑談ではなく、楽しく議論することだったので、抽象的な内容で全体に共感できる内容で相手を傷つけることなく説得するこ

とが求められたと思うのですが、なかなか出来ず、頭の引き出しの問題なのかなと思いました。難しかったです（笑）またメモを取らないとついて行けず難しかった（汗マーク）

- ただ、チームで意見をまとめるというより、自分の言いたいことを言って、あとは相手に任せるという感じになってしまった。また、話すペースがやや早くなってしまったので、次回行うときはもう少し落ち着いてゆっくり話せるようにしたい。

3 工夫が欲しい（女性:1　男性:2　不明:1）

- ウォームアップが少なく皆発言することに緊張している。カードに書かせて発表するなどコミュニケーション能力、自己肯定感の低い人に合わせたワークショップの工夫が欲しいと感じました。
- あとみんな話すのがゆっくりなので、このコミュニケーションゲームの時間では短いのではないか？
- 就活の時に似たようなことをしたなあと思いながらやっていました。個人的な意見なのですが、コミュニケーションができないというときはコミュニケーションそのものではなくそれ以前の基礎に問題がある時もあるので、そこへのフォローもあったらもっと良かったかなーと思っておりました。
- 項目が話し易いか、そうでないかによって、コミュニケーションの豊富さなどが左右されるように感じた。

4 ルールが分かりづらい（女性:1　不明:2）

- ルールと進行が分かりづらく、ペース配分が分かりづらかった。誰がしゃべってないか、しゃべらずに終わってしまうなどがなく、全員が話せてよかったです
- ゲームを、はあくするのに時間がかかった。なれてきたときには、終わっていた。
- 幾らかルールが多いので話す事よりルールを守る方に気がいってしまった感じがあります。

5 自分の意見を十分述べられた（女性:1　男性:1　不明:1）

- 相手の意見をおちついて聞くことができた。
- 初めて参加してみたけれど楽しかったです。話し合いが苦手だと思っていたのですが、言いたい事が言えて良かったです。
- いろいろな視点からいろいろな意見を探し出せたのが良かった。自分の意見も大体述べることができた。

6 ゲームからの学び（女性:5　男性:3）

- 発想のてんかん、アドリブをきかせる事も大切だと思った。自分の意見をまとめる事は頭の訓練になると思う。自分の意見を述べる事も大切だが、相手の意見をよく聞かなくてはいけない。
- 話を聞く事の難しさを感じつつも、自身と同様の特徴がある方を見つけたりして、貴重な経験になりました。
- 会話をゲームとして受け止めるのも手かなと思った。
- 会話の流れを考えて話すことを意識できました。少しきんちょうして、上手く流れに乗ることは、できなかったと思います。自分の考えではない主張を話す機会は、あまりないので、とても勉強になりました。
- 当事者としては、実際に自分が何か困った、イヤだと感じたとき、どうしたいかを少し話し合って、人の話を聞いてした方が、コミュニケーションのずれとかに気付きやすいのではと思いました。
- どんな人と組むかで自分の役割も変わるし、自分の力の出し方も変わることを思いました。
- 都会と田舎のいいところをふまえながら議論できたのは、とても良かったです。反論意見を言う時に相手のことを尊重しながら言えているので、とても良かったです。視点の移動のコツが少しつかめたと思います。
- 本来の自分と違う立場で話をしたら「落ちついて話している」と評価されたことが印象に残った。普段「考えるより先に口や手が動いてしまう」ことで困っているが、「意識して考える」ことがそのブレーキになる（それが難しいのだが）というヒントをもらえてよかった。

7 楽しめた（女性:6　男性:2　不明:1）

- 楽しめました。
- 人によって持つイメージがちがっていたことが楽しかった。
- さいしょはゲームと聞いてたのでまさか議論をするとは思わなかった。でも、けっこうたのしかった。
- いろいろな意見がきけて、大変楽しかったです
- 自分とは違う意味たくさんあって楽しかったと思う。質問を考えるのはたいへんだったが、答えが返ってきたときはうれしかった。
- 初めてコミュニケーション・ゲームに参加しました。またこういうきかいがあれは参加してみたいです。それといろんな人とも交流をしてみたいです。
- 話題に興味がなかったが、議論をすすめていく中で、ゲームとして楽しさを感じた。

・　ねこ派に回ってきた時に話すのが少し難しいと感じた。全体的に楽しいふんいきの中で進めることが出来てとてもよかったです。
・　違う立場になると、むずかしくなりました。が、おだいを変えたら、また発見がありそうで、むずかしくも、またやってみたい！と思いました。

8 ルールがあって良かった（女性:3　不明:2）

・　普段は無口なので、こういうテーマが決まっているゲームは色々と考えながら自分が思っている事を言えるので。良かった。
・　進行役が、２グループ全員をよく見、耳で聴き、明るく楽しく、でもルールにハズレた時は、すかさずツッコンで修正して下さり、すごく安心して参加できた。つい反論や、自分の体験を言いたくなったが、時間の決められた中、平等にルールにのっとって・・・他人への思いやり、＆自分もある時は抑える事の大切さも体験できて感謝です。ちなみに、ここに参加する前、すさまじい夫婦喧嘩してきたが、私の一方的責め Time でした。
・　自分の意見を『誰かがしゃべるのではないか』ということを気にしないでしゃべれたのは、とても良かったと思います。又、他の人が自分とは逆の意見を持っていたとしても、理由に納得できたりしてとても良かったです。
・　何について話すかが明確で、だれが話すのかも明確でしたので、コミュニケーションのいい練習になったと思います。かったことがあるかないかで、話しやすさが違いました。
・　自分で選ぶオプションが面白かったです。7 分間で自分を試してみる感覚が楽しいと思いました。観察する役では、他の人のよいところ、冴えてるところがよく分かりました。

9 発想の転換・視点の切り替えが難しい（女性:3　男性:2）

・　視点を変えるのが苦手なので（最初に感じた印象が固定してしまって、なかなか変えられない）どうして、みんなが視点を変えられる受け取り方、見方を変えられるところがすごいなあと感心した。
・　頭のきりかえ難しかった。途中までは出来た。ディスカッションではなくコミュニケーションなので、入りやすい。ディスカッションは難しい。ゲームとめい打ってるので楽しく、真面目にも入れればいいと思う。
・　ハートの印を持つ事で、すぐに反対の立場に立って意見を言うのはとてもむずかしかった。
・　ディベートみたいだった。その役になって、やらなければならないので、苦手なものをやる時は、反対の気持ちだから大変だった。コミュニケーションが上手くないので、あせってしまうこともあった。

・　頭の切り替えが難しかった。

10　２つのことを同時にするのが難しい（女性:3　男性:1）

・　自分のいいたいことに集中してしまって、味方の言葉に耳を傾けられなかった。まとめの議論をするときに何人かの意見だけピックアップしてしまって申し訳なかったと反省点はありますが、議論はできて楽しかったです。
・　人の意見を聞きながら自己主張する難しさを痛感いたしました。イイコトサガシ役でも、客観的に聞いていたつもりでも印象に残ったことと良い所が異なったりして、本当のイイコトサガシはいつもより難しかったように思います。しかし、今回のプログラムで色々勉強になりました。
・　自分の発言に気をとられてしまい相手の人に配慮不足で暴走してしまっていたのでこれからは落ち着いて周囲に気配りが出来るように心がけていきたいです。
・　話をしているなかで、同じチームの方の事や、相手チームの方への気配りをすることが難しかったです。（時間配分や、相手の意見を受けた上での意見など・・・）

11 視点の転換は楽しい（女性:1　男性:1）

・　視点を変えるのが楽しい。好きでないものへも客観的に良いところを見つけようとすることは大切。このゲームから発展して思考の柔軟性を身につけられると良い。
・　「山」と「海」だけで色々な話題や意見を聞くことができてよかったです。違う立場になって意見を聞く、又は聞き役（オーディエンス役）のも新鮮で面白かったです。

12 その他（女性:2　男性:5　不明:1）

①　ポジティブな側面（女性:2　男性:3　不明:1）

・　今日、犬と猫に関するテーマだったので、動物園や水族館などでいろいろみてきた人にとっては良いテーマだと思う。一方で、犬や猫を飼育したことない人などにとってはむずかしいのではと感じました。
・　今日参加した人とあいさつ程度なのでとてもドキドキしました。他の人に話している内容を聞いて、こんな風に話せば良いのか･･･と思うことができました。
・　自分でもわからなかったのですが山で食べるカレーで、表現力があったと初めてしりました。被災地の土地をはなれたくはないと共感もしたが、都会でも長く住んでいたら同じと思い反感もありました。パレードの応援で人数が

多くて良いことが以外でした。

- 皆さん非常に豊かな表情・声音でコミュニケーションをとれていて、それが印象的でした。
- 余談。発達障害は、感覚過敏の人が居るので、タワシのイガイガした感触は、人によっては不快で、気持ちよく話せないケースもあるかなと。もっと肌触りの良いアイテムになればいいなーと。
- 今日は参加者に楽しくワークしてもらえたのでよかったです。これからも、年１回くらいで実施していきたいですね。

② ネガティヴな側面（男性:2　不明:1）

- 多数決が最悪だった。以上。
- 会話を重ねるうちに、自分の意見が尽きてきてしまい、同じ事を繰り返さざるを得なくなった。また、質問を入れるのが必ずしもうまくいかなかった。
- いがいとむずかしかった。

3.2　人とのコミュニケーションで困った体験

1 意図読みとりの困難（女性:5　男性:4）

- 人の言葉の表面にとらわれてしまい、一番相手が伝えたいことが分からないズレた受け取り方をしてしまう(女性)
- 話の意図が分からない。(女性)
- ホームヘルパーの仕事をしているのですが、自分のスペースでどんどん仕事を進めてしまい、お客様が本当にのぞんでいらっしゃる事を、言葉の端から読み取る事ができなくて困ってます。友人との会話では困ることはないのですが(女性)
- 「手術中、動くと危険なので、動くとき、くしゃみ、せきが出そうなときは教えてください」と看護師から説明があったが、「どのように」伝えればいいのかわからなかった。「あさいちで」と言われても何時頃かわからなくて困った。(女性)
- 相手が伝えたいことを正しく受信できなかったり、(女性)
- 仕事で相手の言ってることが理解しにくいほうだと思うことがあります。(男性)
- 職場で上司の指示を間違って解釈しやすく、それが原因でトラブルになりやすい。(男性)
- 相手の意図やかくされたうらのいみを読み取るのが苦手です。相手の見た目、

プロフィールそれまでの付き合いなどから判断してます。とにかく見た目で判断してます。忍耐強い、自己中、それを面に出す出さないなどかなり見た目で判断してます。そろそろ大人というか多少年を取った人間（29 さいです）の行動がしたいです。自分は(男性)

・ 相手の伝えたいことや文章（本）でも自分の言葉におきかえてしまう。(男性)

2 感情読み取り（女性:2　男性:5）

・ 遠回しな物言い、ノンバーバルな伝達。わからないことはないが、嫌悪感がふくらんでくる。それが態度に出ているらしい。(女性)
・ 話の流れが読めない。話し手の気持ちがわからず、場にそぐわない話し方をしてしまい、人に不快な思いをさせたときがある。(女性)
・ 相手の感情が変化した時、何が原因かわからない事がある(男性)
・ 夫婦の会話で相手の気持ちを汲んでやることが難しく、黙ってしまうことが多い。(男性)
・ 人の意図や気持ちをとっさには読めないので、後から思い起こすと独りよがりだったなと思うことが多いです。(男性)
・ 相談相手の気持ちを汲み取ることが苦手で、相手の気持ちにうまくよりそえない。(男性)
・ また、「言われなくてもわかるだろう」ということがわからなくて、人についていけなくなることもある。場の空気や雰囲気がわからず、話に入ることができなかったり、場違いの話をして雰囲気をぶち壊してしまうこともある。(男性)

3 押しの強い人に対処できない（女性:2　男性:2）

・ 強くでる人に、うまく対応できない。(女性)
・ お姑さんは主張が強く、なかなかこちらの意見を聞いてくれないので、大抵にっこり笑って流してしましいます。こちらの意見も聞いてほしいのですが、目上の人に主張する良いやり方が分かるといいなと思っています。(女性)
・ 押しの強いタイプの要求を断れない。そして後で思い出してイラっとしたりする。(男性)
・ 自己主張が強い方の対応に困ります。(男性)

4 独りよがり･話し始めると止まらない（女性:3　男性:2）

・ 話を始めると止まらない　早口で分かりづらいと言われる人の話を聞いていないと言われる　相手の話をさえぎってしまう(女性)
・ 空気を読まずに、自分の言いたいことを突然、喋りまくることが多く（学生

時代はとくに）いつのまにか嫌われていった。自分のことばかりに気が行って、周りの意図とか空気が読めないことで、かなり困ってきた気がします。(女性)

- 一方的に話すぎてしまうこと。(女性)
- 独りよがりになりがちなこと。(男性)
- めいわくをかけられたら、しつこくかみついてしまう。クッション言葉がつかえない。ちがう言い方が思い出せない。(男性)

5 複数での会話が苦手（女性:2　男性:3）

- 1 対 1 以外で話すのがとても苦手。すぐ緊張してしまう。　家族以外の男の人と今までほとんど話した事がないので、何を話したら良いか分からない。緊張すると、ちゃんと内容がきけていないのか、忘れてしまうのか…話せなくなる事がある。(女性)
- 3 人で話しているとき、両方に話をふるのはたいへんやった(女性)
- 複数の人で会話している時に、なかなかついていけないと思うことがある。(男性)
- 複数人で輪になった会話では、自分の意見や賛同をするタイミングを逃してしまい、思ったことが言えない。(男性)
- 又、友人同士が楽しくトークして笑ってる時、自分の話には、「うん」しか反応せず、黙ってる。こちらは情報量不足過ぎて、人の言った事反復して言う時、相手の反応がない事。自分と相性悪い人が、他人（特に自分の親友）のリアクションやトークにウケてる所がとても困る。(男性)

6 興味のない事に反応できない（女性:2　男性:0）

- 職場で浮いているような感じがした。他の人と話すのが苦手で、自分に興味のない事にはかなり無関心になりやすい事も多し。(女性)
- 興味のない話題に関して会話するのが苦痛。(女性)

7 雑談ができない（女性:1　男性:3）

- 職場での雑談(女性)
- 自分の身を守るために変なことを言ってはいけないシーンでは話すことがあたりさわりのないことばかりになってしまい、雑談ができないし、その中で人と仲良くなれない。(男性)
- 仲良くなることがむずかしい。友達を作れない。会話がはずまない。(男性)
- 雑談でうまく会話を進めていくことができなかったり、相手が話しているのに応答するのが苦手である。(男性)

8 言い過ぎてしまう・婉曲して伝えられない（女性:3　男性:0）

- 物事をハッキリ言い過ぎて相手を傷つけてしまうことが多いので、もう少しやんわり言える方法が知りたいです。(女性)
- 黙っている人にイライラして責めてしまう。自我が強すぎて、子供がつぶれてしまった。(女性)
- 自分が感情的になっていたりすると、勢いにまかせて場の座をこわすことがあった。(女性)

9 自分の意見を言えない（女性:3　男性:5）

- 困った時、我まんし続けて、バクバクするまで（社会、過程・・）うまく表現できず、自滅をくり返して、ホトホト困っている。(女性)
- 会社や就労移行でアスペルガーなど発達障害への理解があまり進んでいなく「あなたは発達じゃないんじゃないの」とか「仕事に問題ないのに自分からコミュニケーションできないの」と言われて遠りょしてしまい何も話せなくなってしまう。頭では言いたいことはあるのに場の空気を読むことにとらわれてしまい言葉を発しにくくなる。(女性)
- なかなか自分の意見を言い出すことができない。緊張して、言いたいことが上手くまとまらない事がある。(女性)
- 学生時代（高校・大学自体）はあまりコミュニケーションが上手くなく、対人関係の場（学科・サークル活動）であまり自分の意見を言えなかったため誤解を受ける事が多かった。又、人間関係の場で孤立する事が多かった。今でもその傾向が少しある。(男性)
- 普段から聞き手なので、以前は人前での会話は苦手でした。今ではだいぶ良くなっているとは思います。思いたいです。(男性)
- いざ自分が話そうとするとあがってしまい、うまく自分の気持ちを伝えることができなくなる。(男性)
- 場所やその時の気分にもよりますが話したいのになかなか話題がでてこない時があります。(男性)
- 課題の話しで、スムーズに会話が出来なくて困っている。人と比べて、無口で何を話したらいいか、困ること。(男性)

10 話すことをまとめられない（女性:3　男性:2）

- 説明するとき、どこまで（どのくらいの程度で）説明してよいか分からない

細かくなりすぎたり粗くなったりする。説明するとき頭が真っ白になる。何も覚えられない。涙がでて話せない。(女性)

- 思ったことがスグ言葉に出てこない。普段から自分の意見をまとめておくクセがないからかも…。困ったことが沢山ありすぎて書ききれません（笑）(女性)
- 聞き役になっているときは、良いが、自分が話そうとすると、「話したい」という気持ちだけで話がまとまらず、何を言いたいのか伝わらない。(女性)
- 仕事の場面では、仕事の目的や方向性などを会議の冒頭で参加者全員に話をしないといけないが、上手くできない。毎回原稿作るのも非現実的だし・・・レジュメを作ればよいのかも。(男性)
- 話のペースが早くなったり、頭の中で言葉を組み立てられなくなって話せなくなったりする。(男性)

11 その他（女性:3　男性:3）

- 主語をつけずに話すクセがあり、一度では伝わらないことが多い。(女性)
- いいたいことが相手に伝わらず、イライラしてしまう。(女性)
- 自分が発信したいことが上手く伝わらないこと。一方的に話すぎてしまうこと。(女性)
- 相手に意図が伝わらず間違ったまま進んでしまった。(男性)
- 自分の意見を相手に伝わるように話すのが苦手で、仕事の場面では、自分の意見をよく誤解されることがあります。(男性)
- 自分がかんちがいや相手にかんちがいをさせてしまう。(男性)

4 章　講演会

4.1　2017 年 11 月 18 日講演会のアンケート結果

4.1.1　講演会の概要

講演は、「発達障害を持つ人の可能性を探る」という題目で行われた。講演者は原佐知子氏と東田愛子氏であった。原氏からは、発達障がいを持つ成人の就労支援の際に、どういったアプローチができるのかについて話題提供があった(付録 6)。東田氏は、否定的に捉えられがちな発達障がいの特性を、逆に強みにしていくという発想の転換について話をした(付録 7)。

4.1.2　参加者の属性

アンケートには 22 名が回答し、そのうちの約 6 割が女性であった。また、参加者の年齢で最も人数が多かったのは 40 代で、全体の約 4 割を占めていた。その次に、20 代と 50 代が多く、いずれも全体の約 2 割であった。参加者の職業で最も多かったのは会社員(33.3%)で、逆に最も少なかったのは学生(9.5%)であった。参加者のほとんどは、奈良県内に住んでいた。

講演会の情報については、Facebook で情報を得たと回答した者が最も多く 24%で、その次がチラシで見たという回答(20%)であった。職場で情報を得た、Facebook 以外のインターネットで情報を得た、あるいはその他の情報源からという回答はいずれも 16%であった。その他の内訳は、「でぃあ～HP」「就労支援センターコンパスのメール」「大学」「病院のカウンセラーの紹介」と回答した者が各 1 名であった。発達障がいとの関わりについて、自身が当事者であると回答した参加者は全体の 20.8%(5 名)で、当事者以外の参加者が大多数を占めていた（表 4.1.1)。講演会は役に立ったかという質問に対して、役に立ったという回答が 9 割であった。

表 4.1.1　発達障がいとの関わり

	自身が発達障がい当事者（自己診断含め）	家族・友人・知り合いに発達障がいの人がいる	発達障害に関わる仕事をしている	発達障害に関わる研究をしている	特に関わりはない	その他
人数	5	7	9	0	3	0
%	20.8	29.2	37.5	0.0	12.5	0.0

4.1.3　講演会の感想

1）発達障がい当事者以外にも重要な話

- 原さん東田さんのお話、発達障害の有無に関わらず大切なお話だと思いました。今 36 の主婦ですが、学生時代にも聞きたかった内容だと感じました。今後自分の子育てにも活かしていきたいです。
- すごく興味深い話だと思います。自分（自分の周りの人も）は特に発達障害に関わりがないですが、原さんと東田さんの話を聞いて、すごく自分の生活にもヒントが得られました。特に、東田さんお話した「できないことからできることへ」の考え方がすごく大事だと思います。
- 多くのスタッフや患者様にも聴いて欲しいと思った内容でした。マニュアル本専門書では記載されていない内容がてんこ盛りでまた次も聞きたいです。

2）今後の対策

①自分に対する対策

- 自分は行動力はあるのですが、チームワークからはずれてしまって一人で行動してしまいがちで、メモることとかをまずしてみたいとおもいます。
- 自分の好きなことを大切にして心や体の状態がよければ、人の為にも行動できる事が多くなる。わがままではなくて自分の思いや考えも大切にしていこうと思いました。
- できることできないことの分類、仕事で反映できるようにしたいです。ありとうございました。

②当事者に対する対策

- ひとそれぞれその人によって特ちょうが違うということ、自分なりに勉強というか知るチャンスを得ながらつきあっていこうとおもいます。
- 現在は学生なので、職場における発達障害との向き合い方や関わりについてピンと来ませんが、今後社会に出たときに心に留めておきたいと思う点が多々ありました。

③相手を褒めてみる

- 今回 Facebook から情報を見て参加させてもらいました。重度障害児から軽障害児の子供たちに対して、重度障害児のコミュニケーションがとるのに、かたずけができないのをできるのを、かえたくて、いろんな方法を考えて、ひとつでもできたらほめるのがだいじだなと思いました。ふだんから、できたら、ほめますが、重度障害児のほめ方には、できたら「かたづけ」できた

のねと、おおきくほめてあげるのがいいかなとおもいました。

- 東田さんの話しは子ども（自分の）の言葉や行動にあてはまりすごく勉強になりました。だけど褒めるのってすごく難しいことだけど頑張ってみます。

④ポジティブに捉えてみる

- 発達障害の息子が高校を卒業して就職して働きはじめたら私にできる事って何だろう、何がしたいのだろうと考えていて具体的な答えや行動にでられてない今、この講演の中にヒントがあればと参加させてもらいました。自己を知る事、得意を知る事、できない事はどうサポートしてもらえたらできるかと具体的に伝えられるよう、助けてと言える事が大切。前向きにポジティブにとらえる事。できると思って行動に移す事。どうしたらできるかを考える事。思いついた事はまずやってみようと思える事。自信がなくてできない行動に移せない事も多いですが前向きにとらえてやってみる事が大切だなぁと思いました。
- 「出来ないは出来るの第一歩」良い言葉だと思いました。

3）当事者の生きづらさがわかった

- これまで理解しにくかったこと、「？」と思っていたことが見えてきたように思います。「こうすればよかったのか」とこうかいする気持ちも大きくなりましたが、これから先のつきあい方にプラスになったような気がします。
- 東田さんのとうじしゃのはなしが利用者さんと重なるところ合ってその人のうまく伝え話せないためにこちらに理解できなかった所や気持ちの部分が少しわかった気がします。

4）発達障がいの特徴がよりわかった

- 自分→（子ども）の特性が分かってよかったです。ありがとうございました。
- これまで発達障害に対して、固定概念のようなものがあったことに気づきました。実際は当事者一人一人、性格や能力が異なっているのでその人に合った接し方などを心がけることが大事だと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
- 障碍者支援で仕事をしています。色々な障害の方が来られており支援として良いのか悪いのか本当のところわからずにしているように反省しております。

5）もっと体験談を聞きたい

- 色々な事例、それをこくふくした方の体験等聞きたかった。
- 発達障害についての話しで、大人社会での話しが多く、あまり学ぶことがで

きなかったです。どちらかというと、子供からの話しが聞きたかったです。

6）勉強になった

- とても勉強になりました。ありがとういございます。
- 就労支援の仕事をしています。今回お二人の話を聞かせて頂き、具体的な事例等大変勉強になりました。
- 障害者さんは会社にもおられますが、なかなか詳しい話はしてくれないので今回講演者様のお話はとても参考になりました。
- 人それぞれ障害あるなしにかかわらず個別に生きていく時代だと思います。自分なりに勉強させて頂いたと思います。

7）その他

- 当事者さんのお話をきくのが初めてでした。感覚や感じ方を生の声で聞けたのはとても貴重な時間でした。本当に有難うございました。
- 当事者の方にむけた内容が強いように感じました。
- 自分自身現在進行形での行き辛さの具体的な行動が分かりました。ありがとうございました。
- 私は子供を通して自分にも広汎性発達障害が有る事に気づいたひとりです。仕事も介護職経験者でコミュニケーション労働は発達保障の仕事はとても楽しいのですが販売の仕事の方は売上が全てで人権もモラル教育が低いと思います。もちろん売上を上げる事も経験者ですが商店レベルの人たちは仲良しになることが一番でチームワークがおきざりになっています。奈良市育成会の親の会員のひとりとしてサーポートもしていけると良いなぁ～と思っています。もっと身近な事になる事を望んでいます。
- 分かりやすく説明いただき、楽しく話を聞くことができました。ありがとうございました。
- 東田さん講演の内容は共感、理解できる。支援のヒントにもなっていくと思う。
- ポジティブ３D、ネガティブ３D 等が非常に印象に残りました。自分を客観的見るテクニックが印象に残りました。全体的にとても良い講演会でした！！
-

4.1.4　コミュニケーションで困ったこと

1）困っていること

- メモをとるのが苦手。話にまとまりがなく同じ内容を言ってしまっている時がある。一対一なら会話できるのですが大勢の前だと過呼吸におちいってしまう。分からないことがわからないこと。

2）今後の要望

①当事者の声を聞きたい

- 今回の様に発達障害の当事者の声が聞ける講演会又はアサーション（アサーティブコミュニケーション）に関する講演会。
- 今回のように当事者の方からのお話が聞ける機会があれば。
- 今日のようにもっと当事者の話が聞きたいです。うまく伝えられない人の代弁者としてうまく話せる。

②具体的な方法について知りたい

- 今は子供については信じて見守る時期だと思っています。ついロだししすぎてわずらわしく思われてしまいがちですが失敗も大切な経験のうちだろうと思うように心がけています。将来自立して、生活する為にはよだよだしんどい事も多くて、自立の為のサポートがどんなものがあるのか？私ができる事が具体的にあるのか？学校を卒業したら情報が入ってくるのが少なくなっているのでその方法を知りたいです。
- やはり、どう行動したらよいのか、法的にはどういったものがあるのか教えていただけたら幸いです。
- ご本人の困ったこと、それをプラスに向けられること、もっと知りたいと思いました。また家族の方の考え、思い失敗いろいろ聞きたいと思いました。
- ADHD の子どもに対してどのように対応して接していけば良いのか教えてほしいです。毎日の生活がとてもしんどいので、対応の仕方などが分かれば生活しやすくなると思います。

4.2　2018 年 2 月 23 日講演会アンケートの結果

4.2.1　講演会の概要

イイコトサガシの冠地情氏が、自身がこれまで実施してきたワークショップを通して得た、「発達障害当事者の生きづらさ」の本質について講演を行った。講演会は、まずイイコトサガシで行っている簡単なアイスブレーク・ゲームから始まり、講演会後には質疑応答の時間が設けられ、活発な意見交換が行われた。講演では、発達障がい当事者である冠地さん独特の造語を用いて、分かりやすく当事者の生きづらさについて話をした。

4.2.2　参加者の属性

講演会アンケートには 11 名が回答し、うち女性は 8 名であった。参加者の年齢は、20 代が最も多く 4 名で、次に 50 代、40 代が多かった。参加者の職業について、学生という回答が最も多く 5 名(45.5%)で、逆に最も少なかったのは主婦／主夫という回答で、1 名であった。また、奈良県内奈良市あるいは大阪府に在住している参加者がほとんどであった。

講演会の情報については、友人・知人から聞いたと回答した者が最も多く 4 名で、その次が Facebook で情報を得たと回答した者で 4 名であった。Facebook 以外のインターネットで情報を得たと回答した者は 1 名であった。

発達障がいとの関わりについて、自身が当事者であると回答した参加者は 2 名で、家族・友人・知人・知り合いに発達障がいの人がいると回答した者が 7 名と参加者の大多数を占めていた。講演会は役に立ったかという質問に対しては、全員が役にたったと回答していた。

4.2.3　講演会の感想

1）受け入れることの大切さ

- 勇気をいただけました。私自身については、試行錯誤をめげずに続けていこうと思えました。息子について、結果的に、理想へ向かって背のびして通信ではなく通学型の高校へ行き、1 ヶ月で不登校になりひきこもりですが、「1 ヶ月通ってみた」事がすばらしい経験として活きてくるよう、支えていこうと思いました。
- 当事者会の方のお話が聞けて、とても勉強になりました。当事者の方の目線について、学ぶ機会が少ないなと感じました。支援する側としては、まず「需

要」することがとても重要であることが再確認できました。発達障害の方が感じている「三重苦」（コンフォートゾーンに関して）という考え方が勉強になりました。やる気がそがれてしまわざるを得ない状況だと感じました。

- 退化硬直の話とても納得できることが多かったです。本人の生き辛さを受け止めつつ歩みよる姿勢を忘れずにいたいと思います。

2）安全地帯から出ることの大切さ

- 今回講演会のお話を聞いて、単純に安全地帯を用意するだけではなく、安心してチャレンジ、成長ができるような場も必要なんだということが分かり、今後の参考になると思いました。思春期の間にそういった経験が大切ということだったので、支援する立場として子どもの抱える苦しさを理解しつつ、その子が成長するためにどの方法が一番適切なのかを考えて接していきたいと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
- 冠地さんの”居場所のための居場所になってはいけない”という言葉にはっとしました。…試行錯誤すること体力いりますが大事ですよね。まず私たちがもっともっとやっていくよう頑張ってみようと思います。

3）力を付けることの大切さ

- 座学ではなく、実際に力を伸ばすためのワークショップを行うところが印象的でした。当事者に求められる力、その力の伸ばし方、当事者に根づいた内容であるからこそ役立てていくことができるのだと思いました。
- 自信を付ける事と練習の大切さが分かりやすい。コミュニケーションを続ける理由が聞けて良かった。コミュニケーションが止まった時のも聞けると良いと感じました。

4）今まで聞いた事がない話が聞けた

- 自助会や親の会など関西で 10 カ所巡りましたが、カンジさんの様なお話はじめてでした。フェイスみせてもらって　又、話を考えてみます。来てよかったです。
- 今迄聞いた事がなかったお話が聞けて本当によかった。

5）その他

- 冠地さんのユニークな造語が大変参考になりました。
- 内容が盛りだくさんでまだ消化しきれていない感じです。そもそも「生き辛さを抱える人」とはどんな人なのか、なぜ 3 倍つらいのか…もっともっとゆっくりお話をうかがいたいと思いました。最初のワークは自分の考えたキー

ワードが人との関係性に関するもので他の人のキーワードをきいてとても新鮮でした。以前にそれぞれの人のいいところをさがして言い合うワークをしたことがあり、似ていると思いました。

4.2.4　コミュニケーションで困ったこと

- 就労を受入れる企業の人達にとって、「発達障がい」はとても理解しにくい障がいです。わかりやすい、理解啓発セミナーが必要だと思います。医者のセミナーは言葉が難解で、逆効果となっています。
- 発達障害について［困っている］。
- 彼ら［フリースクールの生徒］がコミュニケーション力を身につけられる場を（もちろんフリースクールでも多くのとりくみをしていますが)、フリースクールにもこられない生徒たちに対してもそのような場を社会はどうやってつくっていけるのか、いろいろ考えてしまいました。
- また、色々なワークショップに参加させていただきたいです。
- サードプレイスと社会との間はどうしているのか。自信の感情の言語化とは。

4.3　2019 年 1 月 11 日講演会アンケートの結果

4.3.1　講演会の概要

イイコトサガシの冠地情氏と、笹森理恵氏が、発達障がい当事者と”普通”という概念を通して、当事者の多様性について講演をした。講演会は、まず冠地情氏が「発達障害から「普通」を問い直す」というテーマで、自身がこれまで感じた困難、生きづらさについて話した後、どのようにしてそれを克服してきたかについても講演を行った(付録 11)。笹森理絵氏は「ADHD・アスペ系ママ　へんちゃんのポジティブライフ」「私と三人息子は発達障害です。何か？」の著者であり、発達障がい当事者、保護者、支援者の 3 つの立場で活動を行っている。笹森氏の講演は「発達障害の診断と障害受容について考える～当事者、保護者、支援者の経験から」というテーマで、発達障がいの診断を受けた頃を中心に自身の生い立ちや発達障がいの特性などについての話題提供があった。

4.3.2　参加者の属性

講演会アンケートには 41 名が回答し、うち女性は 30 名、男性は 11 名であった。参加者の年齢は、20 代(12 名)と 50 代(13 名)が最も多く全体の約 6 割を占め、次に 40 代が多く 6 名であった。参加者の職業について、パート、アルバイトと回答した参加者が最も多く 11 名(26.8%)で、次に学生(7 名、17.1%)、会社員(6 名、14.6%)の順に多かった。逆に最も少なかったのは自営業・自由業という回答で、1 名であった。また、奈良県内に在住している参加者がほとんどであった。

講演会の情報については、友人・知人から聞いたと回答した者が最も多く 4 名で、その次が Facebook で情報を得たと回答した者で 4 名であった。Facebook 以外のインターネットで情報を得たと回答した者は 1 名であった。

発達障がいとの関わりについて、自身が当事者であると回答した参加者は 8 名で、家族・友人・知人・知り合いに発達障がいの人がいると回答した者が 15 名と参加者の大多数を占めていた。講演会は役に立ったかという質問に対しては、全員が役に立ったと回答していた。

4.3.3　講演会の感想

1）一人の人として

・　お話はとても分かりやすかったです。自分のことをよく知ることが大切と感

じます。誰かとそれを分かち合えることも大切かなと。普通でも、障害あると言われる人も関係ない。人と人として相手のことをよく見て、思いやりを持って関わっていけたらいいのかなと思います。

- 今日のお話を聞いて、ひとりひとりの気持ちや背景に合った関わりや声がけを心がけていきたいと思いました。
- その人が今何に困っているのか、その困りごとが、どうすれば軽減され、今よりも楽に生きられるのか。「障がいがあるから・・・」ではなく、その人が人として、当たり前に暮らしを考えられる文化が醸成されていくことが重要であると感じました。ありがとうございました。
- 障害というより個性なんだと思います。その個性を周りの人たちが、どう理解してあげられるかが、むずかしいです。当事者が自立できるよう、どう手助けしていけばといつも考えています。

2）当事者の話を聞けてよかった

- 当事者の人の話を直接、聞けて良かったです。
- わかりやすく、かみくだいて説明してくださっていて、とてもわかりやすかったです。短い時間ではありましたがお話しをおうかがいすることができ、良い経験となりました。当事者の方からお話を聞くことができる機会というのはなかなかないと思うので、参加してよかったです。ありがとうございました。
- 当事者の方でないと分からない、伝わらない部分もたくさんあると感じ、ピアの関わりの必要性を強く感じました。
- お二人のお話、とても興味深くお聞きしました。どちらの講演も個性があり、参考になりました。当事者のお話は、ご自分の経験に裏打ちされているのでわかりやすかったです。
- 発達障がいの人の中にもフツウの部分がちゃんとあるから、障がいだけに注目しないで良いというコトバに励まされました。発達障がいについて当事者からのお話が聞けて良かったです。
- 今回２人の話しを聞けて大変よかったです。
- 非定型の当事者の方も多様性という観点を発信されていることや、共生のために何ができるかということを考えていることをお聞きすることができて、感銘を受けました。

3）当事者の心理をより理解できた

- 息子は知的障害なので、ここまでの話はできず、理解できませんが、心の中の内を知ることができたように思いました。お二人の講師の方は私たちの未

来も明るくして下さるように感じております。

- A 型の事業所で働いていますが「どうしてこうなるの？」という場面がちょくちょくあります。今回の講演の中で、なるほどそういうことかと気づかせて頂きました。特に「モヤモヤ」のことやそれを弱める〇〇効果が相当大変だということ、まったくふに落ちます。
- 具体例を聞けたことが大変良かったです。引き続き参加したいので、次回案内を下さい。
- 当事者のかたが日々どのようなことを感じ、生活されているのかがストレートに伝わってきて、「なるほど」「そうなのか！？」という驚きや視点が変わるコトバがたくさんありました。
- 発達障害（自閉症）の息子を持つ母親です。小三の時より療育を受け、多方面で支援・教育を親子で受けて来て多くの講演会にも参加いたしました。ほぼ親の活動に寄る物が多かったのですが、今回初めてこちらの講演会に参加させていただき、改めて視点が良く理解できて大変良かったと思っています。
- 冠地さんは、”普通”の方の価値観、発達の特性を持つ方の価値観、両方を分かる方だからこそ、両者の立場の方どちらが聞いても分かりやすいお話になっていたのだと思います。言葉として発達障害特性を勉強していても、どこかで理解しきれていない部分があったと思いますが、”生き辛さ”についてとても納得しました。
- 冠地さんのお話、途中で涙が出てきました。同じ話を娘から聞かされたことがあったからです。娘は高３で ADHD の診断を受け、今は大学生です。毎日どれだけストレスを感じて生活しているかを何度もきかされました。冠地さんのお話はそれをウラ付けするものでした。

4）参考になった

- とても勉強になりました。また、当事者の方にとっても、冠地さんの領域？にいきつくまでのプロセス、考え方など分かりやすく、支援の参考になりました。笹森さんの自身の生育歴のお話もとても勉強になりました。当事者、支援者、保護者、それぞれの立場であるからこその当時の自分を客観的に見た語りは、聞いてる側にとっても、聞き入りやすく、分かりやすかったです。自身にも生きづらさをもちつつ、子ども３人ともが手帳をもつ発達障害というのは大変さが計り知れないのに、このような活動もされていてすごいです。
- 笹森さんの「障害」に対する考え方が、大変参考になりました。非常に納得することができました。冠地さんのお話も、「普通」との違いがうまく整理されており、わかりやすかったとおもいます。イイコトサガシのワークショップもたいへん興味を持ちました。

- 「病気」ではない非定型の人の声が聞けて大変参考になりました。
- とても勉強になりました。お話しありがとうございました。
- 長年”うつ病”で悩んできた夫が発達障害と診断されました。結婚する前から性格的なものと思ってきましたが、私自身が悪いところがあるのではと想い悩んだこともありましたが発達障害とわかりホッとした反面、さて、夫とのこれからを考え試行錯誤中です。今日の講演はとても参考になりそうです。ありがとうございました。
- 保護者としても、又、障害教育を受け続けなければ子供への正しい支援のあり方に向き合えないとわかり、大変参考になりました。
- 笹森さんのお話は、社会、とくに就職、というところのお話がきけてとても参考になりました。私の今一番気になっていることが、娘の就職についてだからです。本人もバイトを通して、障害者枠での就職について考えているところです。

5）活力になった

- 明日からまたがんばろうっていう気持ちになれました。
- とても充実した時間でした。元気が出ました。ありがとうございます。
- 笹森さんのお話は、発達障がいを受容し、うつを経験しそれを乗りこえて、現在援助職をされているということに感銘を受けました。私も知的検査で凸凹があったり、心療内科に通ったこともありましたが、心理職を目指しているので、すごく勇気をもらうことができました。

6）自分の立場とのオーバーラップ

- お二人共前向きでうらやましい。自分で働きかけのできる子になれるのでしょうか。一生心配していなければならないのかな。自分で気づいてくれればと思う。
- まずは、冠地さんの話をきいて、私も同じと思ったところがありました。それを、わかりやすくて良かったです。笹森さんの話をきいて、こんなことしたいが同じだったり、色々と共感できるところがありました。私も発たつ障害が分かった時は、うれしかったけど、それが今日までその障害のせいでと言ってしまいました。なので、そんな風に思わなくて良いのだと思いました。

7）全ての人に適応できる話

- 途中入場でしたが、冠地さんのお話は発達障がいの理解に限らず、私たちが生きていく上での考え方にも生かしていけると思いました。
- 冠地さんのお話は発達障がいの理解に限らず、私たちが生きていく上での考

え方にも生かしていけると思いました。

8)「普通」という観点

- 「普通」ということばにとらわれてしまっているように思いました。もちろん当事者の方々は、「それ」との違いに悩まされていたことは、冠地さんのお話からも、すごく伝わってきました。
- 発達障害の方がとらえる普通というか世間のカベ？がかいま見えたような気がします。また、ご自身も生き辛さ？モヤモヤをお互い溜め込まない工夫も提起されていたのが興味深かったです。
- お二人の講演を聞かせていただき、とても参考になりました。「障害」という言葉と「普通」という言葉のむずかしさを感じました。
- 日常会話で「普通は・・・」と言ってしまいそうになったり、考えてしまったりしたことのある人（自分も含めて）は多くいると思いますが、何が「普通」であるかは人それぞれであるということを改めて感じました。これが「普通」であると凝り固まるのではなく、自分と異なる価値観を知ろうとした上で、受容することが大事なのかもしれない、と講演を聞いて思いました。
- 今まで「発達障害」と対して、ずっと漠然としたイメージを持っていましたが、今日の講演会にご参加させて頂き、発達障害を抱えている方々のお話を聞いて、発達障害に対して新たな認識を持つようになりました。確かに、「普通」の定義を考えてみると一般の人とどこかが異なっている人とか普通ではないと思われやすいですが、もし、異なる点をその人の特性や個性として考えられれば、その人々のことをより理解できるだろうと思いました。
- 発達障害、身体障害、LGBTQ など、様々な生き方が主張され始め、社会も少しずつかわってきている部分もなくはない現状だと思います。しかし、多様性が主張され始めるということは、普通か普通でないか、の２大党制の世の中なのだと考えるようになりました。

9）より多くの人に聞いてもらいたい

- 出来るだけたくさんの人々に今日の様な話しを聞いて頂けるといいですね。人は誰でも発達障害の要因を持っていると思います。
- 興味深い話をありがとうございました。もう少し多くの人に声をかけて連れて来たらよかった、その一言です。

10）改善点

- 冠地さんのレジュメがお話の流れどおりに並んでいるとなお良かった（あちこちにレジュメがとぶため探すのに手間とった）。笹森さんの自分の経験が

いっぱいのパワポわかりやすかった。レジュメがあると良かった。

- 「普通」の概念は理解できるので、もう少し具体的な話が聞きたかったかも。
- お二人共少し早口すぎて聞き取りずらかったのが残念です。内容が多すぎたのでしょうか？もう少しゆっくりお願いしたいです。お二人共も当事者とは思えない程努力され続けて来た結果と思います。その思いの持続は？お聞きしたいです。
- もう少しゆっくりと話してほしかったです。メモをとっているけど途中になってます。

4.3.4　現在困っていることや、今後の講演会への要望

1）困っていること

家族との関係

- 母親との関係。時間割のない仕事なので、次なにしていいか難しい。
- 職場の方は、とても障害者（私たち）のことを理解してくれています。ただ、家の方だと、分からないことばかりなのでむずかしいです。

教育現場での対応

- 医学が進み、簡単に診断がつき、分別された生活を強制される教育現場
- 「普通」がゆらぎ、多様性がもてはやされる中で、子供たちも、支援員も混乱している。また、少しでも負担をかけ、限界点を捜せない。
- 特別支援教育が実施されて 10 年過ぎ、当時は親でも教師でもない立場では相談できませんでした（自宅で中学生を教えていました）。今はもちろんそんなこともなく、先生方も豊富な研修を受けておられ世間でも「発達障害」の言葉を耳にすることが多いです。でも学校現場の格差が広がり、子供達が受けるサポートに差がどんどん広がっているのを見て辛いです（先生方は熱心ですが）。笹森さんの園児の頃と変わっていないなと・・・

その他

- 合理的配慮と言う言葉が、誤解され、表面的、一次元的な考え方が「普通」になっている
- 同じ職場、同じ職種でのひとりの同僚、かなりの感覚過敏があり、でも「発達障害」とまではいかない、空気も読める（とういかウラのウラまで考えて読みすぎる）HSP？なので、どうしても同じ立ち位置での仕事にムリが生じる。でも「障害」ではないので、配慮するところでもないし、またそこに配慮していくと同じ職種でいる仕事が成り立たない。本人はそこを理解してい

るのかどうかも・・・？？かなり被害的な考え方もするので、こちらの方が疲労する。しんどいのは（周りも本人も）ボーダー

- 第４の発達障害として愛着障害を最近知り、主治医の先生にも発達障害もあるけど愛着障害もあるよと言われました。困っていることは質問することです。自分はわからない事・知りたい事が頭に思いつかないのです。知りたい事・わからない事はネット社会になってパソコンでしらべられる。人と関わらなくてよくなったのは悪い方向ではありますが。

2）今後の講演会への要望

対応法や理解を促す内容

- 自己理解、特性理解についての講演会
- 具体的な対応方法について（ADHD の方にはこういう点を気をつけて接すると良いなど）
- 当事者研究（熊谷晋一郎の行っている形式のもの）をしてほしいと思うのでした。
- 不登校だけれども勉学意欲を保たせる方法（単位制や通信制レベルではない勉強です）
- 知的に高いレベルの子供を支援してもらえる団体、人々等

発達障がい当事者の就職について

- 就活をしています。発達障害で手帳をとり、障害者枠で応募するつもりです。大学の新卒で障害者枠で就職する学生に対しての情報が少なく、ほとんどネット頼みです。障害者として働くことをテーマにした講演会や交流会などがあったら、ぜひ参加したいです。
- 発達障害を持っている人の就職や、職場でのまわりの人との関わりについて

当事者との直接対話・ピアサポート

- 講演会というわけではないですが、冠地さんが QA の時にお話していたように「語る」ということの力を実感しています。すこし少人数でも「対話」を通してお互いを知り合える機会があると、良いなと思います。障がいを理解するのではなく、その人を理解したい。
- 困っていることを箇条書きで１つづつお返事して（Q&A）もらえるとありがたいです。
- 発達障がいのある方同士のディスカッション：年代や性別、その人が置かれている立場等によって考え方やとらえ方が異なると思うので、それを知りたいです。　　今後も当事者の方がこのような考えや思いを発信する機会を、支援者だけでなく、ご本人（当事者の方）にも是非聞いて頂きたいと思いま

した。

- 発達障害の人同士で（当事者同士で）少し話せる機会があれば良いなと思いました。
- １対１など、少人数で当事者の方とお話できる時間が設けられた機会があるとうれしいです。
- 発達障害の子をもつ親の出会い、というか、他の方のお話をきいてみたいです。子供といっても、小学生、中学生ではなく、高校生、大学生、社会人の子の親の集いです。これはなかなか無いようなので・・・。

④その他

- 子供が参加できるように働きかける方法はないのか。
- 思春期（高校生）の不登校

付録

1. コミュニケーション・ゲームのルール
2. コミュニケーション・ゲーム　振り返りシート
3. 日本発達心理学会第 29 回大会発表抄録
4. 日本発達心理学会第 29 回大会発表資料
5. 2017 年 11 月 17 日講演会ポスター
6. 2017 年 11 月 17 日の講演会　原佐知子氏発表資料
7. 2017 年 11 月 17 日の講演会　東田愛子氏発表資料
8. 2017 年 11 月 18 日の講演会ポスター
9. 2018 年 2 月 23 日の講演会ポスター
10. 2019 年 1 月 11 日の講演会ポスター
11. 2019 年 1 月 11 日の講演会　冠地情氏発表資料

1. コミュニケーション・ゲームのルール

ワークショップの目標

1. 楽しく議論することをめざす

意見が異なることは悪いことではなく、より多角的に検討することができる。意見が違う人とも議論が楽しめるようにする。

2. 相手の意見に対する理解と自分の主張のバランスを取る

相手の意見をよく理解し、受けとめる。その上で自分の主張を展開する。

3. 話す量のバランスに気をつける

1　チーム間で話す時間が同じぐらいになるようにする
2　チーム内の人の話す時間が同じくらいになるようにする
完全に平等にするのは難しいので、1 のチーム間のバランスをまずは優先する。

4. 視点の移動を体験する

A の時と B の時では、逆の視点になることを体験する。また C では客観的な視点から観察する。

およその流れ

9. ワークショップの参加者は､1 グループ 5－7 人程度が理想(6 人がベスト)。参加者を 3 組に分ける（1 チーム　1～3 人)。立場 A、立場 B で議論する人、オーディエンス役 C　とする。例えば全員で 6 人の場合、1 チーム 2 人ずつ。
10. A と B の人は簡単なテーマで二手に分かれて議論する。
    例えば、「ペットにするのは犬（A)がいいか猫（B)がいいか」など。
    C の人は、議論の様子を観察して、A と B のいいところを探す。
11. 議論の前に、オプションをいくつか提示し、その中から自分の目標を選んでもらう。それぞれどれを選んだかを言う。
12. 議論の時間は 1 回 7 分とする。それぞれの人のスピーチ時間は決めず、自由とする。
    両チームが同じぐらいの時間、スピーチができるように、互いに気を配る。

13. スピーチをする人は、ボールを持つ。スピーチが終わったら次の人にボールを渡す。
14. 議論の時間の中で、1 人 1 回、必ず質問を入れるようにする。
15. 7 分間の自由な議論の後、A,B チームそれぞれ「まとめの議論」を行う。まとめの議論の前に、1 分間作戦会議の時間を取る。まとめの議論は各チーム 1 分とする。それぞれのチームの中で 1 人のみがスピーチしてもよいし、他のメンバーがフォローしてもよい。
16. オーディエンス役の人は、議論が終わった後で、それぞれの人のどんなところが良かったか、説明する（勝敗をつけなくて良い)。1 人ずつについてでも、チームでまとめてでもよい。1 人最大 1 分程度。簡潔に。

オプション・リスト

1. ゆっくり話す
2. 相手の目を見て話す
3. 楽しく議論する
4. 自分の言いたいことをはっきり言う
5. オーバーアクションをつけて話す
6. 自分のチームの人が同じぐらい話せるよう気を配る
7. 相手に反論する前に、ソフトな前置きを言う
8. ユーモアで場をなごませる
9. まとめの議論をメリットとデメリットを比較しながら言う

テーマ

旅行に行くなら山が良いか(A)　海が良いか(B)
住むなら都会が良いか（A）田舎が良いか（B）
お風呂やシャワーは朝が良いか（A)夜が良いか（B)
ペットにするのは犬（A)がいいか猫（B)がいいか
寝るときはベッドが良いかふとんが良いか
朝食はパンが良いかごはんが良いか

2. コミュニケーション・ゲーム　振り返りシート

Ⅰ　このコミュニケーション・ゲームでの体験についてお聞きします

A　今回のコミュニケーション・ゲームで、次のことはどれぐらいできたと思いますか。あてはまる欄にそれぞれ１つだけ〇をつけて下さい。

	まったくできなかった	あまりできなかった	どちらでもない	まあまあできた	よくできた
1　楽しく議論することができた					
2　相手の意見をよく聞くことができた					
3　自分の意見をうまく説明することができた					
4　相手への共感と自分の主張のバランスを取ることができた					
5　立場によって違う視点から見ることができた					
6　それぞれの回で質問することができた					
7　イイトコサガシ役の時、それぞれのチームのいいところを見つけることができた					
8　自分がオプション・リストから選んだ目標は達成できた					

B　今回のコミュニケーション・ゲームについて全体的な感想をお聞きします。あてはまる欄にそれぞれ１つだけ〇をつけて下さい。

	まったくそう思わない	あまりそう思わない	どちらでもない	ややそう思う	非常にそう思う
1　今回のゲームは、コミュニケーションの練習として役立ったと思う					
2　このコミュニケーション・ゲームをやってみて良かったと思う					
3　回ごとに違う立場で話をすることが難しかった					
4　賛成と反対で視点を変えることが難しかった					
5　またこのコミュニケーション・ゲームをやってみたい					

C　以下に、このコミュニケーション・ゲームの感想を自由に書いて下さい

Ⅱ　あなた自身にについてお聞きします

D　以下の質問について、それぞれ、最もあてはまるものに１つだけ○をつけて下さい。

1）性別　　1．女性　　2．男性

2）年齢　　1．10 代　2．20 代　3．30 代　4．40 代　5．50 代　6．60 代以上

3）ご職業

1．学生　　2．パート、アルバイト　　3．主婦／主夫
4．会社員　　5．公務員　　6．自営業
7．求職中・家事手伝い　　8．SOHO（在宅勤務）　　9．その他（　　）

4）お住まい　（　　）都・道・府・県

5）ご結婚はされていますか　　1．未婚　　2．既婚

6）お子さんはいらっしゃいますか　　1．いない　　2．いる　（　　）人

7）あなたご自身はこれまで発達障がいとの関わりはありましたか。

1．自身が発達障がい当事者（自己診断の方も含みます）
2．家族・友人・知り合いに発達障がいの人がいる
3．発達障害に関わる仕事をしている（教育関係，就労支援など）
4．発達障害に関わる研究をしている
5．特に関わりはない　　6．その他（　　）

8）７で「1．ご自身が当事者」と回答された方にお尋ねします。どのようなことがきっかけでそのことがわかりましたか。

1．自身で病院等を受診した　　2．親・先生・友人等に勧められて病院等を受診した
3．発達障がいに関する書籍を読んだ　　4．子どもが発達障がいだということがわかった
5．職場で困ることがあった　　6．子育て・家事で困ることがあった
7．その他　（　　）

9）７で「１．ご自身が当事者」　と回答された方にお尋ねします。そのことがわかったのはいつ頃ですか

１．小学生の頃またはそれ以前　　２．中・高・大学生の頃　　３．　最終学校卒業後

４．就職してから　　５．結婚してから　　６．子どもが生まれてから

７．その他（　　）

10）このワークショップについて、どのようにして情報を得られましたか。

１．ホームページで情報を見た　　２．　Twitter（ツイッター）で情報を得た

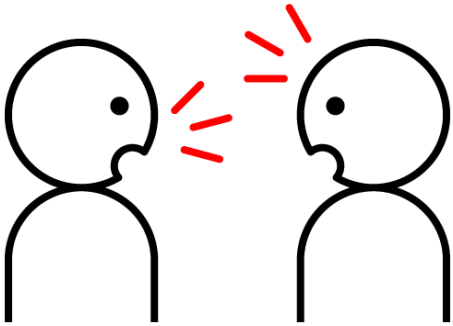
３．Facebook（フェイスブック）で情報を得た　　４．職場で誘われた

５．友人・知人から聞いた　　６．就労支援センターで聞いた

７．その他（　　）

Ｅ　ふだん人とコミュニケーションする上で、あなたは以下のような特徴がどれぐらいあてはまると思いますか。あてはまる欄にそれぞれ１つだけ〇をつけて下さい。

	まったく そう思わない	あまり そう思わない	どちらでも ない	やや そう思う	非常に そう思う
1　興味ある話題だと自分だけが話し続けてしまう					
2　自分がリーダーシップを取ろうとすることが多い					
3　複数での会話場面では聞き役になることが多く、あまり自分の意見を言わない。					
4　本当は相手と意見が違っても、なかなか自分の意見を説明できない					
5　相手の気持ちや言いたいことを読み取るのが苦手					
6　相手が言っていることの意図がわからないことがある					
7　自分の気持ちを説明するのが苦手					
8　自分が何を困っているかを把握し、それを伝えることが難しい					
9　コミュニケーションで困ったことはあまりない					



F　これまで、人とのコミュニケーションで困ったことはありますか。どんな場面で困ったことがあるか、以下に自由に記入して下さい。

G　あなたの長所、得意なことはなんだと思いますか。以下に自由に記述して下さい。

お疲れさまでした。ご記入、どうもありがとうございました。